教育研究業績書

2024年05月20日

所属： 教育学科　　資格： 教授　　氏名： 西本　望

研究分野	研究内容のキーワード
ECEC(幼児教育・保育学)、教育課程、こども学、家庭教育、家族関係論、	基本的生活習慣、家庭教育、親子・家族関係、しつけ・習慣形成、こども・子育て(養育)・家庭支援、社会規範、倫理・価値観、教育課程
学位	最終学歴
博士(教育学)	関西学院大学大学院 文学研究科 博士後期課程 満期退学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.④大学院の論文指導および研究題目	～　現在に至る	平成30年度修士学位論文「保育におけるアタッチメントと保育者のあり方」(宮本和行)。当該論文は、審査者満場一致の合となった。その内容は保育者と幼児期の園児とにかかわる愛着形成を調査することによって、信頼の意味を解明しようとしたところに新奇性を有し、それとともに教育・保育実践に還元するのも可能なことから社会貢献に資するものと評された。
2.授業外の学生支援	～　現在に至る	②さらなる教育の質向上の提案：課題のある学生を見出した際には、クラス担任やゼミ担当教員とも密に連絡をとりながら、学生の授業状況を共有するとともに個別指導にもあたっている。
3.ＦＤに関する研修会：	～　現在に至る	全学主催のFD研修及び教育学科主催のFD研修には全て参加し研鑽に努めている。
4.授業方法	~　現在に至る	講義科目「保育・教育課程総論」、「家庭支援論」、「こども学特論」、「教育学特別講義」については、学会および教育・保育界の動向とともに基盤となる研究はもちろんのこと最新の知見を取り入れて紹介している。限られた授業時間数において、双方向のやり取りは難しいところがあるので、毎回の授業において小レポート提出してもらって、それを参考にして授業内容に還元している。 もちろん演習科目についても履修学生に対しては、その視座より実施している。
2 作成した教科書、教材		
1.『指導の手引　幼児期と児童期の学びをつなぐ』【再掲】	2017年3月	(伊藤篤、西本望、春豊子、平井和恵、川本真紀、岩本美幸、谷口さゆり、柴垣郁子、近都勝豊、大久保拓哉、松田和子)幼稚園教育要領及び小中高等学校等学習指導要領の改訂に向けて、幼稚園から高等学校のまでの体系的な教育課程を通して、育てたい姿を具現化した手引きである。とくに幼児期の教育課程から小学校以降の教育課程につながる接続期のアプローチカリキュラム、すなわち資質・能力の三つの柱、幼児期の終わりにまで育って欲しい姿10の視点に向けての実践研究による教育課程を編成した。4協力モデル園に実践してもらい、それらの柱と視点について、教育課程および保育の評価と省察および改善(カリキュラム・マネッジメント)の分析を行った(全30ページ)。教育評価の変革と学校園の接続教育課程に併せて、現職教員研修に活用する教材を作成した。当該教材は幼稚園教諭はもちろんのこと保育所保育士や認定こども園保育教諭にも幼児教育にかかわる教育として、さらに小学校教諭や教育行政あるいは保育行政の研修にも用いられている。それを用いて学生たちの授業実践あたり、実習だけではなく実践にも即応する知識技術内容としてとりいれている。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.教員免許状更新講習【選択必修】「学校、家庭並びに地域の連携及び協働」	2018年8月2日	(西本望、橋詰和也)近年求められている学校、家庭並びに地域の連携及び協働にかかる今日的な教育課題に

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		ついて理解を深める。具体的には、こどもや家庭、地域社会の変容の経緯や課題についての知見を得るとともに、学校内外での連携協力についての知識を修得する。これらのことを通して、受講者が主体的・省察的に教職生活を過ごすことへの一助とする（講義と演習）。
2.教員免許状更新講習【選択必修】「学校、家庭並びに地域の連携及び協働」	2017年8月	(西本望、佐々木春美)近年求められている学校、家庭並びに地域の連携及び協働にかかる今日的な教育課題について理解を深める。具体的には、こどもや家庭、地域社会の変容の経緯や課題についての知見を得るとともに、学校内外での連携協力についての知識を修得する。これらのことを通して、受講者が主体的・省察的に教職生活を過ごすことへの一助とする（講義と演習）。
3.教員免許状更新講習【選択必修】「学校、家庭並びに地域の連携及び協働」	2016年8月6日	(西本望、佐々木春美)近年求められている学校、家庭並びに地域の連携及び協働にかかる今日的な教育課題について理解を深める。具体的には、こどもや家庭、地域社会の変容の経緯や課題についての知見を得るとともに、学校内外での連携協力についての知識を修得する。これらのことを通して、受講者が主体的・省察的に教職生活を過ごすことへの一助とする（講義と演習）。
4.兵庫県放課後児童支援事業「放課後児童支援員認定資格研修」	2015年12月1日	児童期の生活と発達（於：兵庫県私学会館）
5.兵庫県放課後児童支援事業「放課後児童支援員認定資格研修」	2015年12月1日	子どもの発達理解（於：兵庫県私学会館）
6.兵庫県放課後児童支援事業「放課後児童支援員認定資格研修」	2015年10月29日	児童期の生活と発達(於：伊丹市立産業・情報センター)
7.教員免許状更新講習【必修講座】『時代に向き合う教師力開発(主として幼小対象)」	2015年8月4日	専門家としての教員に求められる、「教職についての省察」、「こどもの変化についての理解」、「教育政策の動向についての理解」、「学校の内外での連携協力についての理解」の4事項に関する最新の知識・技能を修得し、今日的な教育課題についての理解を深める。このことを通して、受講者が主体的・省察的に「時代に向き合って」これからの教職生活をおくれるように促す（講義と演習）。
8.教員免許状更新講習【必修講座】『時代に向き合う教師力開発(主として幼小対象)」	2014年8月1日	専門家としての教員に求められる、「教職についての省察」、「こどもの変化についての理解」、「教育政策の動向についての理解」、「学校の内外での連携協力についての理解」の4事項に関する最新の知識・技能を修得し、今日的な教育課題についての理解を深める。このことを通して、受講者が主体的・省察的に「時代に向き合って」これからの教職生活をおくれるように促す（講義と演習）。
9.教員免許状更新講習【必修講座】『時代に向き合う教師力開発(主として幼小対象)」	2013年8月1日	専門家としての教員に求められる、「教職についての省察」、「こどもの変化についての理解」、「教育政策の動向についての理解」、「学校の内外での連携協力についての理解」の4事項に関する最新の知識・技能を修得し、今日的な教育課題についての理解を深める。このことを通して、受講者が主体的・省察的に「時代に向き合って」これからの教職生活をおくれるように促す（講義と演習）。
10.講演「家庭教育フォーラムこころのなかからうつくしく：こどもの見えない学力(こころの習慣)、日常生活の基本的・社会的な習慣をしつけるには」	2012年2月3日	西宮市PTA協議会、西宮市家庭教育振興市民会議、西宮市教育委員会(於：プレラ西宮)幼児期から「見えない学力」(PTA協議会会長)である「こころの習慣」、つまり家庭生活での基本的生活習慣や社会的生活習慣となる倫理規範をどのように身につければよいのか？その方策についてみてゆきたい。Ⅰ.こども観･教育観の変遷教育観の変遷こども観の変遷Ⅱ. こどもの成長・発達過程とターニングポイント(分岐点)

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		こどもの育ちから特徴をとらえる。ささいなことから、こどもの課題を発見する。Ⅲ. 日常生活の身辺の自立としての基本的生活習慣の獲得・形成 基本的生活習慣形成の意義とその方策Ⅳ.社会生活での規範行動と課題：社会生活についての習慣形成：家庭は、こどもとって、社会生活の訓練の場としての第一歩、①保護者(親)に対する態度と社会的スキルの訓練、②他者関係・仲間関係(お友だちとのかかわり)、③公共マナー(公衆道徳)の獲得子育ての留意事項公共マナー(公衆道徳)、社会生活の習慣のこころえなどを講述した
11.教員免許状更新講習【必修講座】『時代に向き合う教師力開発(主として幼小対象)」	2012年	専門家としての教員に求められる、「教職についての省察」、「こどもの変化についての理解」、「教育政策の動向についての理解」、「学校の内外での連携協力についての理解」の4事項に関する最新の知識・技能を修得し、今日的な教育課題についての理解を深める。このことを通して、受講者が主体的・省察的に「時代に向き合って」これからの教職生活をおくれるように促す（講義と演習）。
12.講演「幼児のしつけと基本的生活習慣」	2011年9月5日	(シティライフ)こどもは好奇心のかたまり。時にはわがままに見える行動も、こどもにとっては、自己を確立(自立)するための重要な成長の過程である。そのような自己主張を大切にしながらも、学校という社会に出るために準備をしなければならない。そこで必要となる基本的生活習慣とそのしつけ方について講演した。
13.教員免許状更新講習【必修講座】『時代に向き合う教師力開発(主として幼小対象)」	2011年7月31日	専門家としての教員に求められる、「教職についての省察」、「こどもの変化についての理解」、「教育政策の動向についての理解」、「学校の内外での連携協力についての理解」の4事項に関する最新の知識・技能を修得し、今日的な教育課題についての理解を深める。このことを通して、受講者が主体的・省察的に「時代に向き合って」これからの教職生活をおくれるように促す（講義と演習）。
14.教員免許状更新講習【必修講座】『時代に向き合う教師力開発(主として幼小対象)」	2010年	専門家としての教員に求められる、「教職についての省察」、「こどもの変化についての理解」、「教育政策の動向についての理解」、「学校の内外での連携協力についての理解」の4事項に関する最新の知識・技能を修得し、今日的な教育課題についての理解を深める。このことを通して、受講者が主体的・省察的に「時代に向き合って」これからの教職生活をおくれるように促す（講義と演習）。
15.. 講演：現代家庭と幼児教育の課題－家庭教育の崩壊と一家団欒の時代の終焉－	2009年6月2日	神戸市私立幼稚園連盟専門研修講座(於：私学会館)現代のこどもを取り巻く家庭環境とその状況についての問題点と課題について説明し、教育基本法や幼稚園教育要領の改定と合わせて、こどもの支援に何が必要かを提案した。たとえばモンスターペアレンツ(ヘリコプターペアレンツ)といわれるような保護者対応や青年期に触法にあたいする行動が生じていることなどを紹介しながら、かつてのような地域の喪失や家庭の崩壊によって、そこでの教育力や一家団欒姿の存在した家庭・地域の時代が終焉を迎えようとしていることを聴衆に自覚してもらいながら、いかにしてこどもの成長発達を支えるか、教師、幼稚園の重要性を説いた。
16.講演「現代家庭と幼児教育の課題―家庭教育の崩壊と一家団欒の時代の終焉―」	2009年6月2日	神戸市私立幼稚園連盟専門研修講座(於：私学会館)現代のこどもを取り巻く家庭環境とその状況についての問題点と課題について説明し、教育基本法や幼稚園教育要領の改定と合わせて、こどもの支援に何が必要かを提案した。たとえばモンスターペアレンツ(ヘリコプターペアレンツ)といわれるような保護者対応や青年期

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		に触法にあたいする行動が生じていることなどを紹介しながら、かつてのような地域の喪失や家庭の崩壊によって、そこでの教育力や一家団欒姿の存在した家庭・地域の時代が終焉を迎えようとしていることを聴衆に自覚してもらいながら、いかにしてこどもの成長発達を支えるか、教師、幼稚園の重要性を説いた。
17.教員免許状更新講習	2009年	
18.講演「教員免許状更新講習について 」（授業づくり研修講座）	2008年8月27日	相生市教育委員会（相生市教育研究所、於：相生市福祉会館）兵庫県播磨地区の校長・園長、教頭･副園長、主任、指導主事等を対象にして、教員免許状更新講習の制度と受講対象者や受講手続き等具体的なことまでを紹介した。さらには武庫川女子大学で実施した教員免許状更新予備講習の大学での教職員のシステム状況を知らせ、今後の課題についても述べながら、質疑応答も行った。
19.教員免許状更新講習(予備講習)【選択講座】『(主として幼小対象)」	2008年8月2日	「こどもと身体表現」講義、演習・実技で実施をした(西本望、崎山ゆかり、遠藤晶)。その中でも「しつけ･環境によって、こどもが身体的に表出する行為・行動について」を1.こどもの成長･発達過程とターニングポイントと表出する行動の発見２.基本的生活習慣の形成の方策とこどもの身体的表出を講述した。
20.講演「教育評価の類型と技術的方策－学習のよりよい評価にむけて－」	2008年4月18日	川西市教育委員会(於：川西市教育情報センター)幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭を主な対象として、授業評価、学校評価についての理論と方法論について解説した。とくに相対評価から絶対評価の到達度評価に移行するときの留意すべき内容について指摘した。評価の時期、観点別評価、評価の解釈の仕方など技術面についても講述した。個人内評価の意義と解釈、ポートフォリオの理論と技術面についても解説した。評価の本来の意義は教師の指導改善のためにあることを前提とし、こどもに対しての評価方法と解釈については、個人内評価と到達度評価をどのようにしていくのかを具体的に指導要録での記載の特徴から示した。さらには特別支援教育でのこどもの発達支援のための診断的評価についても講述した。
21.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中シルバー人材センター	2008年	
22.講演「障害者(児)の家族の理解」豊中福祉公社	2008年	
23.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中福祉公社	2008年	
24.講演「障害者(児)の家族の理解」豊中シルバー人材センター	2008年	
25.平成19年度厚生労働大臣指定柔道整復師専科教員認定講習会	2007年9月	厚生労働大臣指定柔道整復師専科教員（社団法人　全国柔道整復学校協会）を対象にして、教育学関連課目についての研修会講習の講師を務めた。
26.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中福祉公社	2007年	
27.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中シルバー人材センター	2007年	
28.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中福祉公社	2007年	
29.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中シルバー人材センター	2007年	
30.講演「教育評価」（授業づくり研修講座）	2006年8月15日	相生市教育委員会（於：相生市教育研究所）西播磨地区の幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭を主な対象として、授業評価、学校評価についての理論と方法論について解説した。とくに相対評価から絶対評価の到達度評価に移行するときの留意すべき内容について指摘した。評価の時期、観点別評価、評価の解釈の仕方など技術面についても研究を行った。個人内評価の意義と解釈、ポートフォリオの理論と技術面についても解説した。
31.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中シルバー人材セ	2006年	

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
ンター		
32.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中シルバー人材センター	2006年	
33.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中福祉公社	2006年	
34.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中福祉公社	2006年	
35.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中シルバー人材センター	2005年	
36.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中シルバー人材センター	2005年	
37.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中福祉公社	2005年	
38.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中福祉公社	2005年	
39.奈良県専修学校教員研修会	2004年8月	専修学校教員を対象にして、教育学関連課目についての研修会講習の講師を務めた。
40.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中シルバー人材センター	2004年	
41.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中シルバー人材センター	2004年	
42.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中福祉公社	2004年	
43.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中福祉公社	2004年	
44.奈良県専修学校教員研修会	2003年8月	専修学校教員を対象にして、教育学関連課目についての研修会講習の講師を務めた。
45.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中シルバー人材センター	2003年	
46.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中シルバー人材センター	2003年	
47.講演「障害者(児)の心理と行動」豊中福祉公社	2003年	
48.講演「障害者(児)の家族の心理」豊中福祉公社	2003年	
49.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2002年2月9日	(於：やすらぎの村)
50.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2002年2月9日	(於：やすらぎの村)
51.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年12月22日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
52.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2001年12月22日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
53.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年10月21日	和歌山県母子寡婦福祉連合会(於：かつらぎ町)
54.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2001年10月21日	和歌山県母子寡婦福祉連合会(於：かつらぎ町)
55.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年8月17日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター「ハートフル」)
56.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2001年8月17日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター「ハートフル」)
57.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年8月11日	(於：やすらぎの村)
58.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2001年8月11日	(於：やすらぎの村)
59.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年8月1日	(於：JA中央会大阪)
60.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2001年8月1日	(於：JA中央会大阪)
61.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年7月30日	(於：豊中市シルバー人材センター)
62.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2001年7月30日	(於：豊中市シルバー人材センター)
63.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年7月28日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
64.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2001年7月28日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
65.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年7月15日	(於：日本主婦連合会)
66.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2001年7月15日	(於：日本主婦連合会)
67.講座「記録報告の技術」	2001年4月7日	(於：やすらぎの村)
68.講座「ケア計画の作成と記録」	2001年4月7日	(於：やすらぎの村)
69.講座「相談援助とケア計画の方法」	2001年3月10日	(於：やすらぎの村)
70.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2001年1月13日	(於：日本主婦連合会)
71.講演「高齢者と幼児との人間関係の大切さ」	2000年12月18日	(於：豊中市福祉公社)
72.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年12月18日	(於：豊中福祉公社)
73.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年12月9日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
74.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年12月9日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
75.講座「ケア計画の作成と記録報告の技術」	2000年11月27日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター「ハートフル」)
76.講座「障害者(児)福祉の制度とサービス」	2000年10月30日	東大阪市シルバー人材センター
77.講座「共感的理解と基本的態度」	2000年9月21日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター)

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
78.講座「福祉用具の基礎知識と理解	2000年9月21日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター)
79.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年8月17日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター)
80.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年8月17日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター)
81.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年8月12日	(於：有田市)
82.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年8月12日	(於：有田市)
83.講座「ホームヘルパーの職業倫理」	2000年8月11日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター)
84.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年8月10日	(於：JA中央会大阪)
85.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年8月7日	(於：豊中市シルバー人材センター)
86.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年8月7日	(於：豊中市シルバー人材センター)
87.講座「障害者(児)福祉の制度とサービス」	2000年7月31日	JA中央会大阪
88.講座「サービス利用者の理解」	2000年7月31日	(於：JA中央会大阪)
89.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年7月8日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
90.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年7月8日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
91.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年6月17日	(於：日本主婦連合会)
92.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年6月17日	(於：日本主婦連合会)
93.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年4月15日	(於：やすらぎの村)
94.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年4月15日	(於：やすらぎの村)
95.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	2000年4月8日	(於：やすらぎの村)
96.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	2000年4月8日	(於：やすらぎの村)
97.講座「サービス利用者の理解」	2000年2月29日	(於：豊中福祉公社)
98.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1999年12月11日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
99.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1999年12月11日	(於：日本主婦連合会)
100.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1999年12月11日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
101.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1999年12月11日	(於：日本主婦連合会)
102.講座「共感的理解と基礎的態度の形成」	1999年12月8日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター)
103.講座「ホームヘルパーの職業倫理」	1999年11月10日	東大阪市社会福祉協議会(於：東大阪市高齢者サービスセンター)
104.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1999年10月4日	(於：やすらぎの村)
105.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1999年10月4日	(於：やすらぎの村)
106.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1999年8月25日	(於：豊中市福祉公社)
107.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1999年8月25日	(於：豊中市福祉公社)
108.講座「サービス利用者の理解」	1999年8月10日	(於：JA大阪東部本店)
109.講座「障害者(児)・高齢者の制度とサービス」	1999年8月10日	(於：JA大阪東部本店)
110.講座「サービス利用者の理解」	1999年8月9日	(於：岸和田JA)
111.講座「障害者(児)・高齢者の制度とサービス」	1999年8月9日	(於：岸和田JA)
112.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1999年8月9日	(於：岸和田JA)
113.講座「ケア計画の作成と記録報告の技術」	1999年7月25日	(於：総合メディカル株式会社)
114.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1999年7月19日	(於：日本主婦連合会)
115.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1999年7月19日	(於：日本主婦連合会)
116.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1999年6月20日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
117.講座「老人･障害者(児)の福祉とサービス」	1999年5月2日	(於：やすらぎの村)
118.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1999年3月20日	(於：やすらぎの村)
119.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1999年3月20日	(於：やすらぎの村)
120.講座「相談援助とケア計画の方法」	1999年3月6日	(於：やすらぎの村)
121.講座「福祉用具に関する知識」	1999年2月28日	(於：日本主婦連合会)
122.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1998年12月19日	(於：日本主婦連合会)
123.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1998年12月12日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
124.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1998年12月12日	(於：和歌山社会福祉専門学校)
125.講座「ケア計画の作成と記録報告の技術」	1998年10月18日	主婦連合会(於：吹田地区)
126.講座「ケア計画の作成と記録報告の技術」	1998年9月26日	(於：やすらぎの村)
127.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1998年8月26日	(於：豊中市福祉公社)
128.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1998年8月26日	(於：豊中市福祉公社)
129.講座「高齢者･障害者(児)の家族の理解」	1998年6月28日	(於：日本主婦連合会)
130.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1998年6月28日	(於：日本主婦連合会)
131.講座「高齢者･障害者(児)の心理」	1998年6月20日	(於：和歌山社会福祉専門学校)

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
132.講座「老人･障害者(児)の福祉とサービス」	1997年6月19日	大阪府総合女性センター(於：「ドーンセンター」)
133.講座「老人･障害者(児)の福祉とサービス」	1997年6月14日	(於：金剛東メディカルセンター)
4 その他		
1.研究賞(玩具福祉学会学会賞)	2015年3月	（共著）「玩具とのかかわりについて」『玩具福祉研究』第8号pp.31-40：当該研究論文は玩具の選択・購入者との意識と子どもと玩具のかかわりについて明らかにするため、先行研究を吟味し、時代的変化にも焦点を当てて定量的要因分析を行っていて、研究上の大きな参考になる。審査委員長吉田浩(東北大学大学院経済学研究科)
2.特別賞	2014年3月	子育て中の母親が訪れやすい阪神沿線のスポットを紹介するマップ「mama’s smile 阪神沿線 子どもとおでかけナビ(阪神なんば線編)」を制作した教育学科の西本望教授(幼児教育学)ゼミが3月9日、公益社団法人「兵庫県保育協会」から「平素の努力をたたえるとともに、保育分野での今後一層の活躍を期待する」として、共同制作した阪神電鉄とともに特別賞を授与された。
3.統計活動奨励賞	2003年11月	平成15年度　統計活動奨励賞（財団法人日本統計協会）受賞対象：文部科学省指定学術フロンティア推進拠点プロジェクト　JGSSプロジェクト(共同研究)

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.中学校教員一級普通免許状(理科) 2.高等学校二級普通教員免許状(理科) 3.幼稚園教諭専修免許状 4.臨床発達心理士		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.兵庫県社会教育委員	2023年7月10日　～　2025年7月9日	
2.『宝塚市立公民館指定管理者制度導入後の検証に係る意見書』	2023年4月	は、地域課題解決のための学習の場としての公民館を実現するためには、市の直営によること、社会教育主事を各館に１名以上置くことが望まれるが、 公共施設の運営に関する環境変化及び 宝塚 市において直営による公民館運営が困難となる現状を鑑み、指定管理者制度の導入が避けられないと考えざるをえないとし、本制度導入にあたって 7 つの条件を付した 上 で当該条件について最大限の配慮をすることを結論づけています 。その意見書をふまえた平成 30 年（ 2018 年）の答申「地域課題解決のための公民館学習及び社会教育のあり方について」でも、指定管理者制度による公民館の管理・運営に当たっては、教育委員会が積極的に公民館の事業展開に関与し続けることの重要性、とりわけ教育委員会によるチェック機能の重要性を提起してき ました 。 これらの意見書及び答申の内容を踏まえつつ、平成 31 年 2019 年） 4 月の 宝塚 市立公民館指定管理者制度導入以降の管理・運営と 現状 について検証し、意見をまとめることにいたしました。 指定管理者 制度導入後、約 4 年が経過するタイミングで、公民館の管理・運営をチェックし、その成果と課題を振り返り、今後の公民館のあり方について見直したものになります。新型コロナウイルスの影響下で、社会教育の現場は危機と変化のチャンスの両方を迎えていると考えられます。
3.兵庫県教科用図書選定審議会　委員	2022年4月1日～2022年8月	令和5年度　使用教科用図書の採択に関するの審議

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
	31日	
4.令和4年度　兵庫県社会教育委員協議会　理事	2022年4月　～　2023年3月	
5.芦屋市文化推進審議会　委員	2021年4月～　現在に至る	文化の推進に関する重要事項についての調査審議、文化の推進に関する事項について意見を述べること及び文化の推進に関する施策の評価
6.『宝塚市立図書館への指定管理者制度導入に係る意見書』	2020年7月	宝塚市社会教育の会議の議長として市立図書館について指定管理制度導入の可否についての意見書の取りまとめを行った。令和元年に宝塚市立図書館協議会が「宝塚市立図書館における指定管理者制度導入及びこれからの図書館のあり方についての意見書」を作成し、宝塚市立図書館への指定管理者制度の導入は適切でないと結論付けた。結論に至った理由が10項目挙げられ、運営者側の立場での判断との見方もでき、社会教育委員の会議としても、指定管理者制度導入について独自に検討するとともに、社会教育の観点からも改めて今後の宝塚市立図書館のあり方を検討した。
7.答申書『今後の生涯学習の推進と社会教育のあり方について』	2020年2月	西宮市社会教育委員として「人生100年時代の生涯学習」のありかたについて諮問を受け、答申書「今後の生涯学習の推進と社会教育のあり方について」の執筆および編纂に携わった。西宮市社会教育委員として、1人生100年時代の生涯学習00年人生のありかたについての諮問を受け、答申書「「今後の生涯学習の推進と社会教育のあり方」について」(全29ページ)の「第1章　社会教育を取り巻く状況の変化」pp.3-6を担当(立田慶裕、西本望、佐藤智子、伊藤篤)
8.大阪市こども青少年局に係る会議　座長	2019年4月～現在に至る	法人監査等[詳細非公開]
9.兵庫県保育実習等充実検討委員会　委員	2019年4月～2021年3月	兵庫県内の保育所及び認定こども園の保育実習並びに教育実習に係る改善の検討。
10.阪神北地区社会教育委員協議会　理事	2019年4月　～　現在に至る	(2022年4月~2023年3月迄)会長
11.文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室大学設置分科会　専門職大学専門委員会	2018年10月～現在に至る	専門職大学等の設置にかかる大学及び法人審査並びに教員審査。
12.宝塚市教育委員会　社会教育の会　議長	2018年2月～現在に至る	宝塚市の社会教育にかかわる事業、たとえば公民館運営、市立図書館の運営に係る審議。
13.答申書『地域課題解決のための公民館学習及び社会教育のあり方について』	2018年	宝塚市社会教育委員の会議は、平成29（2017）年8月24日に、宝塚市教育委員会より「地域課題解決のための公民館学習及び社会教育のあり方について」の諮問を受けた。諮問書には「今後、地域課題の解決のための学習の場としての公民館を実現するためには、運営方法に関わらず、公民館が実践すべき具体的な学習方法を確立する必要があります」と記載されている。しかしながら、すでに平成29（2017）年4月には、「公民館と指定管理者制度のあり方」と題した答申書を私たちは宝塚市教育委員会に提出していること、また同年9月には「指定管理者制度導入に係る宝塚市立公民館設置管理条例の全部改正」が可決されたことを鑑み、指定管理者による運営を念頭に置き、本答申書の作成に向けて研究・協議を進めた(西本望、伊藤篤)。
14.文部科学省高等教育局大学設置・学校法人審議会教育学専門委員会専門委員	2017年10月～　2020年10月	大学設置及び法人審査および設置に係る教員資格・業績等の審査。
15.兵庫県保育士等キャリアアップ研修検討委員会委員	2017年5月～現在に至る	平成30年度以降に保育士の処遇改善の要件化されることを見据え、受講者が1年間に各分野の修了が可能な研修プログラムを提供する。8分野各15時間の研修を提供し、副主任保育士及び専門リダーについては4分野の研修終了、職務分野別リダーについては1分野の研修修了とし、それぞれに処遇改善が図られる予定となっている。それらの新たな職位の取得希望者向けの研修を県内の神戸、阪神、姫路、淡路、播磨、但馬6地区での開催の日程、会場、研修の教育課程を検討する。
16.兵庫県教育委員会　幼児教育支援委員会　副委員長	2016年4月～2018年3月	幼稚園教育と小学校教育との接続教育課程カリキュラム、とくに幼稚園教育でのアプローチ・カリキュラム

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		の検討をモデル幼稚園の実践とともに実施した。
17.芦屋市教育委員会公民館運営審議会　委員長	2015年4月～2019年3月	芦屋市の公民館の運営にかかわる審議検討など。現在委員として継続。
18.大阪市こども青少年局保育所運営に係る会議[詳細非公開]　座長	2014年5月～2018年3月	大阪市立保育所の運営についての検討。保育についての全体計画、教育課程、指導計画、保育環境、保育士の待遇、児童への保育活動や扱いなど検討した。公設民営、民間移管等の審査、保育所査察、法人監査等[詳細非公開]　。
19.宝塚市教育委員会幼稚園教育審議会委員	2014年5月2015年3月	宝塚市の幼稚園教育と運営にかかわる審議検討。3年保育認定こども園の実施等。
20.西宮市教育委員会　西宮市社会教育委員	2014年2月3日～現在に至る	西宮市の学校、家庭、地域の連携を検討する
21.平成24年度使用義務教育諸学校教科用図書西宮採択地区協議委員	2013年4月～2013年8月	西宮市立の義務教育諸学校で使用する教科用図書の選定に係る審議会。各学校の各教科選定にかかわる教員代表からの推薦図書とその審議内容を精査した。
22.芦屋市教育委員会公民館運営審議会委員	2013年4月～現在に至る	芦屋市の公民館及び市民センターの運営にかかわる審議検討など。副委員長、委員長を歴任した。
23.芦屋市教育委員会公民館運営審議会委員　副委員長	2013年4月～2015年3月	芦屋市の公民館の運営にかかわる審議検討など。
24.西宮市教育委員会　西宮市家庭教育振興市民会議委員	2012年4月～2014年3月	西宮市内の家庭教育の振興にかかわる協議。地域各種団体活動の把握検討。
25.八尾市教育委員会　評価委員会　委員長	2009年4月~2013年3月	地方教育行政組織及び運営に関する法律に基づいて点検・評価を行った。教育委員会の活動状況（教育委員会の構成、当委員会及び協議会月別開催状況、同委員会定例および臨時会の日程および議案、、同委員会委員の諸活動）教育委員会事務局における主な取り組み（総務人事科、教育政策課、施設管理課、学務給食課、指導課、教育サポートセンター、人権教育課）生涯学習部（生涯学習スポーツ課、八尾図書館、文化財課）、教育委員会事務局の事務事業の各部局についての点検及び評価と助言を行った。（学識経験者：委員長西本望、池上徹、その他教育委員会事務局）
26.宝塚市大型児童センター運営委員	2009年4月~2011年3月	児童センターについて、年間行事・催しなどの活動および指導計画、開館時間、警備、職員の配置等についての助言等。
27.西宮市立西宮高等学校　学校評議員	2006年4月~2009年3月	学習指導、生徒指導、特別活動、教師による指導、学習環境、学校経営等について質疑および助言等。 教育課程(年間行事、普通科およぶグローバルサイエンス科教科)、各地域代表者、PTA会長、同窓会長、学校長、副校長2名、教務主任、生徒指導主任、進路指導部主任、各学年主任)
28.西宮市旅館業等審査会委員	2004年10月～2012年10月	当該審査会は、西宮市附属機関条例に基づき設置されている市長の附属機関で、旅館業、風俗営業及び店舗型性風俗特殊営業等の用途に供する建築物の建築等の規制に関する条例（平成16年西宮市条例第5号）による旅館業、風俗営業及び店舗型性風俗特殊営業等の用途に供する建築物の建築等に対する同意等についての審査及び助言等を行う。とくに当該審査委員として、初等教育を初めとするあらゆる教育施設等や乳幼児・児童・生徒・学生がのぞましい人格発達等のために資するよう、上記業種等の建築や営業行為に対する審査と助言を行っている（委員：学識経験者　西本望、畑守人、前田雅子、安田丑作；公募委員）。
4 その他		
1.会報記事「子どもの性格のできかた」	2006年1月16日	（とよなかファミリー・サポートセンター)子育て支援をしている援助会員を対象に、子どもと発達や子どもと親との関係が、のちの子どもの望ましい人格形成に至ることや子育てからくる子どもの問題行動や親の子育て不安などとしつけの方策および対処法について講演内容を記載した。（『とよなかファミリーサポート・センター会報号外4』）
2.取材「子どもの性格のでき方」	2005年11月14日	『神戸新聞』子育て調査から、子どもと発達や子ども

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		と親との関係が、後の子どもの望ましい人格形成に至ることやこど立てから来る子どもの問題行動や親の意識ついて取材を受けて掲載された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.『教育課程・保育計画総論』	共	2023年5月31日	建帛社pp.22－44	編著者理論編と実際編の二部構成。理論編で法的背景や歴史など保育に必要な知識を習得し，実際編では豊富な計画例と解説を読み解くことで，保育実践の理解を深め保育をイメージできるようまとめている。「第２章　教育課程・保育の計画の歴史的変遷」１．教育課程および保育の計画の意味、２．教育課程・保育の計画の歴史的変遷、３．教育課程・保育の計画の編成の類型（１）教科カリキュラム（２）経験カリキュラム （３）コア・カリキュラム（４）学問中心カリキュラム（５）カリキュラムの顕在と潜在を著した。 編著：戸田雅美 西本望 著者：榎本眞実 金澤妙子 北村都美子 久米裕紀子 迫共 永倉みゆき共著
2.『保育学研究倫理ガイドブック2023』	共	2023年5月	一般社団法人　日本保育学会	大学等で保育学を学ぶ学生、また大学院学生、幼稚園教諭・保育教諭・保育士等教育・研究機関で働いている教員・研究者、保育学を学ぶ者、さまざまな立場から研究をする者、研究に協力者に、具体的事例をもとに実際のプロセスに沿って倫理について考えてもらえる内容となっている。時代とともに倫理に関わる問題も複雑かつ内容の質も変化しているなか、本書の普及は、保育界全体にとって社会的使命である。大会発表時の問題、とくに発表規定の遵守について著した。 執筆協力：秋田喜代美、磯部裕子、岩立京子、上田敏丈、榎沢良彦、遠藤利彦、大方美香、大沢裕、大豆生田啓友、河邊貴子、北野幸子、小林真、佐々木晃、汐見稔幸、清水益徳、砂上史子、高橋弥生、瀧川光治、田中敏明、戸田雅美、豊田和子、中坪史典、西本望、西山修、橋本勇人、福元真由美、若月芳浩、渡邉英則ほか
3.『新しい保育・幼児教育方法』（第２版）	共	2022年12月	ミネルヴァ書房 pp.40－58	(広岡義之、大谷彰子、新家智子、大江まゆ子、西本望、猪田裕子、加藤惣一郎)執筆者の一部も交代している改訂版である。 計画・方法を計画・実施するには、こどものこれまでの成長・発達過程を考慮しなければならない。子どもの発達についていえば、身体、上所、生活行動、記憶、認知、言語などがある。これらのなかで、とくに社会性のケ畏敬課程に関わることについて論じる。これには、対人関係として最初となる愛着性の形成、身の回りの生活についての習慣行動である基本的生活習慣の形成過程について取り上げた。愛着性の形成および基本的生活習慣の形成について、それぞれの留意点についても記載した。「第3章幼児の発達と保育方法」
4.『教育用語・法規改訂新版』	共	2021年5月1日	ミネルヴァ書房	(広岡義之、猪田裕子、梅本恵、及川恵、大江まゆ子、大谷彰子、大平曜子、上寺康司、佐野茂、塩見剛一、芝田圭一郎、砂子滋美、津田徹、中田尚美、西本望、福田規秀、松井玲子、松田信樹、吉原惠子ら）教員採用試験で触れられる範囲の教育学の用語を中心に、基本的な人名・事項約1100項目を収めた用語集。最新の法制、学習指導要領に対応した内容で、教育に関する時事問題も含めて掲載した。しかも巻末には関連する主要な法規類および教育史年表を収録している。執筆した用語については次のものがある。教育と宗教の衝突論争、教科書裁判、教護院、教職員の労働基本権、施設のインテリジェント化、児童家庭支援センター、条件づけ、条件反射、情緒障害、情緒障害児教育、スキャモン,R.E.、スタンフォード・ビネー知能検査、正規分布曲線、生産的思考、精神年齢、セガン,É.Ｏ．、接近説、タゴール,Ｒ．、男女共学、ＴＡＴ、定時制・通信制教育、ディベート、登校拒否、到達度評価、内申書、パーソンズ,T.、バリアフリー社会、PFT、必修科目、標準偏差、フィッシャー法、フェヌロン,F.、ボウルビー,J.、ホール,G.S.、マザリング、マスタリーラーニング、マレー,H.A.、モーズレー人格目録、リビドー

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				、レヴィン,K.、レスポンデント学習、レミニセンス、連合説と認知説、老年教育学、六・三制、ロール・プレイングなどである。これらには新しい知見を組み入れるとともに、現代の論争や課題等も取り入れて刷新している。
5.『教育のイデア』改訂版	共	2020年4月	昭和堂	教育課程･指導計画についての意義を示し、現代に至るまでの基盤となっている歴史的変遷を紹介した。さらには教育課程の改善とともに類型を示した。そのうえに教育要領、各学校種指導要領等の改訂による、幼児教育から高学校教育まで資質・能力の共有化による一貫した系統的な編成についての観点や取り組み、課題と展望を記述した。加えて社会的課題ともなっている家庭教育について著わした。これについては家庭の役割機能の時代的推移、子育て家庭の傾向、家庭教育の課題と展望を記載した。当該書の編集代表も担った「第Ⅱ部第6章　教育課程・指導計画」、「第Ⅲ部第1章　家庭教育と親子の絆」(pp.125-137,156-169)光成研一郎、大森雅人、猪田裕子、山下敦子、池上徹、尾場友和、佐久間裕之、猪熊弘子、成山文夫、津田徹、塩見剛一、嶋口裕基、芝田圭一郎、西本望、桐村豪文、國崎大恩、森知子、荻田純久、隠岐厚美、佐野茂、上寺常和
6.『教育原理』	共	2020年1月	ミネルヴァ書房(全214ページ)	「第2章　教育思想と歴史」を担当執筆。そこには諸外国の教育思想と歴史として、教育思想の黎明、中世の教育思想、近代の教育思想、現代に通じる教育思想を記述した。つぎにわが国の教育思想と歴史として、古代・中世の教育、近世の教育、近代学校教育制度への転換、教育の軍拡主義化と民主化、現代の教育を記した。さらに子ども(児童)観・教育観の変遷として、古代から中世のこども(児童)館について、ヨーロッパのこども(児童館の転換、子どもの権利と最善の利益、近代日本の女性間の転換とこども観の変遷、近年の動向について記述した(pp.60-98)。(三宅茂夫、田中亨胤、西本望、川村高弘、佐藤和順)
7.『子ども家庭支援論』	共	2019年10月	光生館(全174ページ)	編集および分担執筆「第2章子育て家庭支援事業の概要」編集および分担執筆「第2章子育て家庭支援事業の概要」時代のニーズに応じた最新の子どもおよび家庭のおかれた状況と支援施策、さらに児童福祉施設の近年の問題点、例えば虐待などの不適切な養育のため、こどもの最善の利益を代表するとは限らないことなど。そのため児童福祉に関する施設と支援策を網羅し、そこでの具体的な方策についての機序などを記述したpp.19-40（橋本祐子・西本望・森本宮仁子、田中文昭、杉岡幸代、小河晶子、西本佳子、奥田早苗、波田埜英治、卜田真一郎、椎葉正和、堀千代）
8.『特別支援教育Ｉ』	共	2019年4月	姫路大学通信教育部(全131ページ)	「保育所保育での障害児保育の歴史的経緯」インンクルージョンの立場から全ての子どもに適切な保育・教育を行うための方策として、理念、理解と援助、さらには子どもの家族への支援について記述した。学校教育での障害児保育･教育の歴史的経緯、近代学校教育制度の成立と障害児保育･教育の黎明保育所保育での障害児保育の歴史的経緯　保育所以外での福祉施設での障害児保育の歴史的経緯を記述した。保育所保育においての障がい児に係る保育の発症と現代にいたるまでの経緯について記述したpp.4-14 (小河晶子、西本望、西本佳子)
9.『発達心理学』	共	2019年4月	姫路大学通信教育部(全153ページ)	「第7章　愛著性の発達:親子関係の成立」「第8章　社会性の発達」「第9章　道徳性の発達」「第10章　人格の発達」「第11章　情緒の発達」の章を担当して、こどもからの積極的な発信による愛着形成、基本的生活習慣の形成など社会性の発達、それに続く道徳性と人格の形成について著わした。さらには情緒の発達と問題や配慮すべき事項について記述した。pp.60-114を担当(小河晶子、西本望、西本佳子)
10.『新版保育原理　保育の本質を探し求めて』	共	2019年3月	あいり出版(全195ページ)	担当は3章の「保育施設の発展と保育の動向」であって、それは2節構成からなり、「(1)保育施設の発展」では、欧米各国の保育施設と創設と発展について記し、「(2)保育の動向」では現代の欧米諸国の最新の状況について記した。ｐｐ.66-85（戸江茂博、中田尚美、村井尚子、西本望、和田真由美、坂根美紀子、佐藤智恵、谷口ナオミ、前田佳代子、柏原栄子）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
11.『保育カリキュラムの基礎理論　教育課程・全体的な計画の学び』	共	2018年6月25日	あいり出版(全249ページ)	2012(平成24)年8月には、子ども・子育て関連三法が成立し、子どもの育ちと多様な教育・保育ニーズへの対応として、幼保連携型認定こども園の改善等が図られるとともに、既存の幼稚園及び保育所からの移行を促進することが示された。保育の量的な拡充とともに保育の質の維持・向上も重視されている。これらの視点から、幼稚園、保育所、認定こども園の教育や北の休暇や幼児教育から高等教育までの教育課程の視点の一貫性と接続などのカリキュラムについて述べた。「保育カリキュラムの現状と課題」(pp.59-74)戸江茂博、大橋喜美子、猪田裕子、岩崎成美、西本望、柴ひろ、佐藤智恵、澤田愛子、塩津恵理子、久保木亮子、森知子、園田幸恵
12.『教育のイデア』	共	2018年4月	昭和堂（全224ページ）	教育課程･指導計画について、意義を示し、現代の教育課程･指導計画に至るまでの基盤となっている歴史的変遷を紹介した。さらには教育課程の改善とともに類型を示した。そのうえにこのたびの教育要領、各学校種指導要領等の改訂を受けて、幼児教育から高学校教育まで資質・能力の共有化による教育課程の一貫性など教育課程・指導計画の編成についての観点や取り組み、課題と展望を記述した。加えて現代的課題ともなっている家庭教育について著わした。これについては家庭の役割機能の時代的推移、子育て家庭の傾向、家庭教育の課題と展望を記載した。当該書の編集も行った「第Ⅱ部第6章　教育課程・指導計画」、「第Ⅲ部第1章　家庭教育と親子の絆」(pp.125-137,156-169)光成研一郎、大森雅人、猪田裕子、山下敦子、池上徹、尾場友和、佐久間裕之、猪熊弘子、成山文夫、津田徹、塩見剛一、嶋口裕基、芝田圭一郎、西本望、桐村豪文、國崎大恩、森知子、荻田純久、隠岐厚美、佐野茂、上寺常和
13.『シリーズ知のゆりかご　いまがわかる教育原理』	共	2018年3月	みらい（全204ページ）	生涯学習に取り組む諸外国の各機関ユネスコ での生涯教育に関する理念を基礎にして、OECD の教育開発研究センター(CERI) によるリカレント教育論、ヨーロッパ評議会による地域での教育論など、それぞれの概要を記した。さらに日本では、欧米とは異なり、独自に江戸期以来、民間組織・団体として地域での教育と、制度的には、明治期から公的施策である社会教育として発展をしてきた経緯を記した「第13章生涯学習社会と教育」(pp.176-191)。井谷信彦、猪熊弘子、大倉健太郎、尾場友和、久保田健一郎、差波直樹、塩見剛一、西本望、弘田陽介、増田翼、箕輪潤子、宮地和樹、山上裕子
14.『幼児発達研究会50回のあゆみ』	共	2017年6月1日	幼児発達研究会（全63ページ）	当該研究会がこれまで実施してきた研修及び実践の取り組みについてを記述した。たとえば設立当初の50年前より幼小接続の教育課程について示した。教育課程や保育の計画の開発や編成について恒常的に探究していること。すなわち年間や月間にかかわるカリキュラムや日々のプログラムを持続的に提供する。各園で改善や刷新された教育課程や保育の課程を導入するために、これまでの活動を省察し、社会の変容と各個人の成長発達を洞察した将来を見とおした最善を尽くした内容を有したものを検討する。さらには実践知の獲得を目指した内容を揃え、オリジナリティに富んだカリキュラム開発により、種々の課題を解決し、新たに発生する問題をも予防・抑止・改善していく。それらに併行して、実践者と研究者が結び付いて、幼保小連携、幼小接続、家庭・地域・学校園の連携など職域を超えた協力・連携が必要となり、その契機となることを示した(pp.8～10,54～55,63)（小林芳郎、大日方重利、下村富美江、西本望、森田健、堀田浩之、島津多美子、大西英子、岡本秀美編著)。
15.『指導の手引　幼児期と児童期の学びをつなぐ』	共	2017年3月	兵庫県教育委員会	(伊藤篤、西本望、春豊子、平井和恵、川本真紀、岩本美幸、谷口さゆり、柴垣郁子、近都勝豊、大久保拓哉、松田和子)幼稚園教育要領及び小中高等学校等学習指導要領の改訂に向けて、幼稚園から高等学校のまでの体系的な教育課程を通して、育てたい姿を具現化した手引きである。とくに幼児期の教育課程から小学校以降の教育課程につながる接続期のアプローチカリキュラム、すなわち資質・能力の三つの柱、幼児期の終わりにまで育って欲しい姿10の視点に向けての実践研究による教育課程を編成した。4協力モデル園に実践してもらい、それらの柱と視点について、教育課程および保育の評価と省察および改善(カリキュラム・マネッジメント)の分析を行った(全30ページ)。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
16.『はじめて学ぶ教育課程』	共	2016年4月	ミネルヴァ書房(全188ページ)	教育課程について、明治初頭の近代学校教育の成り立ちから日本の教育界に影響を及ぼしてきた欧米の教育課程の現状と現代的な動向である各国のナショナルカリキュラムを中心にして著わした。さらに教育課程について世界最新の動向についても紹介した「第7章　諸外国における教育課程の現状」（pp.107-127）（福本義久、塩見剛一、広岡義之、堤直樹、佐野秀行、古田薫、西本望、山本孝司、津田徹）
17.『家庭支援論』(第2版)	共	2016年3月	光生館pp.39-60	(橋本祐子、日浦直美、西本望、森本宮仁子、田中文昭、杉岡幸代、小河晶子、田辺昌吾、阪野惠以子、宮田ますみ、椎葉正和) 子ども子育て新制度の実施にともなう法・条文の改正、さらに認定こども園や種々施設の課題についてを大幅に修正改訂した。そこには後見人や法的代理人となる親権者が虐待などの不適切な養育のため、こどもの最善の利益を代表するとは限らないこと。そのため児童福祉に関する施設を列挙し、そこでの支援についての経緯などを記述した（「第3章子育て家庭新事業の概要」）。
18.『新版保育用語辞典』	共	2016年2月	一藝社	「京阪神聯合保育会」「個人情報の保護」「災害対策基本法」「自主保育」「頭足人」「二重保育」「日本保育協会」「世界幼児教育・保育機構」「多文化保育」「ＤＡＰ」「童心主義」「領域」「小西信八」を担当した。(谷田貝公昭、石橋哲成、中野由美子、西本望、若月芳浩、和久洋三ら)
19.『保育原理』（第3版）	共	2014年1月	みらいpp.128-152	(田中まさ子、浅野俊和、新井美保子、大江まゆ子、小栗正裕、尾上明子、白幡久美子、瀧川光治、西本望、芳賀亜希子、水野道子、矢藤誠滋郎）新制度に向けて教育課程にかかわる内容を大幅に改定した。保育実践に至るまでに、一人ひとりのこどもに様々な背景が存在していることを基礎として、将来のこどもの成長・発達を見とおした教育課程や保育計画についてを記載した。乳幼児の生命と生活を守るために適切な環境を整えることに成る。そこで種々の内容で充実した保育実践をするため、教育課程・保育課程に包含された内容を、地域に還元するためにも、こどもにふさわしい全体計画を編成したものを示した。それに基づいた教育課程および保育計画を実践することをも記述している。「第8章保育の計画を作成する」
20.『保育原理　保育の本質を探し求めて』	共	2013年4月	あいり出版pp.46-65	(戸江茂博、中田尚美、村井尚子、西本望、西村美紀、和田真由美、坂根美紀子、谷口ナオミ、前田佳代子、柏原栄子)名もなき多くの人びとによる地道な努力で保育は成り立っていることを鑑みて､それらの人びとの行動とともに保育にかかわってきた人物をも加え、日本の保育界に影響を及ぼしてきた欧米の保育について紹介した。とくにヨーロッパでの保育施設の黎明期から発展家庭の歴史的経緯や現代的な動向までを教育課程および指導課程の変遷と最新のものをも提示した(「3.欧米の保育の思想と歴史：保育施設の発展と保育の動向」)。
21.『新しい保育・幼児教育』	共	2013年	ミネルヴァ書房 pp.34-51	(広岡義之、大谷彰子、新家智子、大江まゆ子、西本望、猪田裕子、住野紀子) 計画・方法を計画・実施するには、こどものこれまでの成長・発達過程を考慮しなければならない。子どもの発達についていえば、身体、上所、生活行動、記憶、認知、言語などがある。これらのなかで、とくに社会性のケ畏敬課程に関わることについて論じる。これには、対人関係として最初となる愛着性の形成、身の回りの生活についての習慣行動である基本的生活習慣の形成過程について取り上げた。「第3章幼児の発達と保育方法」
22.『教育原理』	共	2013年	あいり出版pp.159-185	(戸江茂博、中田尚美、成山文夫、猪田裕子、村井尚子、西村美紀、光成研一郎、出口英樹、長瀬善雄、西本望)現代日本社会での問題、こどもの問題、生活環境の変化とこどもの生活、さまざまなこども問題、学校教育の課題として教育改革の動向、家庭、地域、学校の連携、義務教区就学前の課題として少子化と義務教育就学前および幼稚園と保育所の一体化、生涯学習時代の教育として、生涯学習論の概念、生涯学習社会における教育と課題、生涯学習の施設および指導者について記述した「第7章現代教育の課題2」
23.『保育の心理学』	共	2013年	ミネルヴァ書房 pp.139-148	(河合優年、中野茂、寺井朋子、西本望、石川道子)基本的生活習慣の意味と意義とを理解し、習慣の5領域について、各領域での習慣形

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
24.『教育用語法規』	共	2012年	ミネルヴァ書房	成のプロセスとその留意点について記述した「第10章基本的生活習慣の獲得」 (広岡義之、猪田裕子、今井博、梅本恵、及川恵、大江まゆ子、大谷彰子、大平曜子、上寺康司、塩見剛一、芝田圭一郎、砂子滋美、津田徹、中田尚美、西本望、福田規秀、松井玲子、松田信樹、吉原惠子）教育関連用語のなかで重要な基本的な用語の説明、教育時事用語の解説などを示した。本書では「教育と宗教の衝突論争」「教科書裁判」「教護院」「教職員の労働基本権」「教職課程」「施設のインテリジェント化」「児童家庭支援センター」「児童自立支援施設」「条件づけ」「条件反射」「情緒障害」「情緒障害児教育」「スキャモン,R.E.」「スタンフォード・ビネー知能検査」「正規分布曲線」「生産的思考」「精神年齢」「セガン,E.O.」「接近説」「タゴール,R.」「男女共学」「TAT」「定時制・通信制教育」「ティーチング・マシン」「投影法」「登校拒否」「到達度評価」「内申書」「パーソンズ,T.」「バリアフリー社会」「PFT」「病弱・虚弱」「標準偏差」「フィッシャー法」「フェヌロン,F.S.L.M.」「ボウルビー,J.」「ホール,G.S.」「マザリング」「マスタリー・ラーニング」「マレー、A.H.」「モーズレー人格目録」「リビドー」「レスポデント学習」「レミニセンス」「連合説の認知説」「老年教育学」「六・三制」「ローゼンツヴァイク」「ロール・プレイング」などを著した。
25.『保育・教育課程論』	共	2012年	一藝社 pp.197～211	（高橋弥生、安倍孝、五十嵐淳子、岩崎桂子、岸優子、宍戸良子、高橋多恵子、高林穂津美、田中卓也、永淵泰一郎、西本望、船田鈴子、三宅茂夫、柳生崇、吉田直哉、和田上貴昭） 保育・教育課程の一連の流れの中で、保育教育内容を実践したことを省察し、保育者の指導やこどもの育ちを振り返るためのことを記述した。（「第15章保育者の計画と評価」）。
26.『教師を目指す人のための　教育方法・技術論』	共	2012年	学芸図書 pp.35～62	（小野賢太郎、西本望、平井尊士、藤本勇二、小柳和喜雄、宮本浩治、設楽馨）幼稚園教育では、幼児の興味･関心に基づく活動を重視するために、その契機を元にして活動の展開を図ったり、活動の継続性を重視したりする。保育の構成・環境構成、幼稚園教育の特徴、保育・教育課程編成の基本と原則、保育・教育課程編成の要件と手順、教育週数、指導計画作成の手順―週案・日案の作成―、保育指導計画作成の手順、保育内容領域―総合保育施設(こども園)の設置に向けて各年齢段階からみる―、指導計画作成上の留意事項、保育・教育評価の意義―保育・教育計画・実践・記録・評価の循環―、くわえて保育室（遊戯室）での雰囲気を作り出す壁面構成のような環境構成が潜在的カリキュラムとして存在することも記載した（「第Ⅱ部教育実践からみる学びの実践　第２章幼稚園での保育・教育を理解する・実践する」）。
27.『保育のこれからを考える保育・教育課程論』	共	2012年	保育出版社pp.53～56, pp.65～68	（大橋喜美子、豊田和子、西川ひろ子、原子はるみ、鷲岳覚、韓在照、角野雅彦、杉山直子、中田尚美、安井恵子、西本望、後藤範子、武田京子、小林美佐子、堀智晴、関仁志、中田純子、池田幸代、長谷秀揮、平野知美、齊藤崇、橘田重男、加藤博子、大下二三子、美谷島いく子、多田琴子）保育課程とともに、幼稚園課程についても著されたものである。内容には、とくにここで著したのは幼児の心身の発達に応じた適切な保育教育の指導が行えるように子どもの成長・発達理解と保育・教育課程の週変量危機でもある家庭の環境・地域の環境にも着目し記載した。こどもの身体と心(精神)との成長発達過程を理解するために、愛着の形成、基本的生活習慣の形成、発達のターニングポイント、障害のあるこどもの支援と理解など、さらに家庭環境や知己環境については、家庭環境および地域の変貌と遊び集団への通過儀礼、遊び集団、仲間とのかかわり、遊び場の変容と仲間関係の変化、親からの自立と玩具、家庭環境と玩具とあそびのかかわりなどについて記述した(4章2節「家庭環境の変化と子どものあそび」、5章2節「子どもの育ちと発達の連続性」。
28.『障害児保育Ⅰ』	共	2011年	近大姫路大学通信教育課程(文部科学省認可通信教育)	(小河晶子、西本望)インクルージョンの立場から全ての子どもに適切な保育・教育を行うための方策として、理念、理解と援助、さらには子どもの家族への支援について記述した書である。学校教育で

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
			pp.3～15	の障害児保育･教育の歴史的経緯、近代学校教育制度の成立と障害児保育･教育の黎明保育所保育での障害児保育の歴史的経緯　保育所以外での福祉施設での障害児保育の歴史的経緯を記述した。（担当「第1章　障がい児保育を支える理念」）
29.『家庭支援論』	共	2011年	光生館 pp.39～59	（橋本祐子、日浦直美、西本望、森本宮仁子、田中文昭、杉岡幸代、小河晶子、田辺昌吾、阪野惠以子、宮田ますみ、椎葉正和） 児童福祉の旧法から、時代のニーズに応じた最新の条文への変遷、さらに児童福祉施設の近年の問題点、例えば後見人や法的代理人となる親権者が虐待などの不適切な養育のため、こどもの最善の利益を代表するとは限らないこと。そのため児童福祉に関する施設を列挙し、そこでの支援についての経緯などを記述した（「第3章子育て家庭新事業の概要」）。
30.『保育者論』	共	2011年	一藝社 pp.41～56	（浅川繭子、岡田耕一、金宰完、鈴木智子、高野聡子、塚本美知子、富永由佳、西本望、野末晃秀、松原敬子、森下葉子、若盛清美） 保育の創世記にかかわってフレーベルやモンテッソーリのような人物はもちろんのこと、多くの人びとによる地道な努力で保育が成り立ってきたことを鑑みて、日本の保育界に影響を及ぼしてきた欧米の保育者の活動について概略を示した。（「第3章保育者の歴史」）。
31.『保育原理』（第2版）	共	2010年	みらいpp.128-154	田中まさ子、新井美穂子、大江まゆ子、小栗正裕、尾上明子、白幡久美子、瀧川光治、西本望、芳賀亜希子、水野道子、矢藤誠滋郎)保育実践に至る、一人ひとりのこどもに様々な背景が存在していることを把握して、将来のこどもの発達を見とおした用意周到な計画をつまり教育課程について記述した。そこには乳幼児の生命と生活を守るために適切な環境を整えること。そこで種々の内容で充実した保育実践をするため、教育課程指導計画に包含された内容を、地域に還元するためにも、こどもにふさわしい全体計画を編成し、それに基づいた保育活動を実践する(「第8章保育の計画を作成する」)。
32.『グリコ本』	共	2010年	江崎グリコ株式会社広報ＩＲ部	（丸山祐輔、近藤純夫、西本望）グリコのおもちゃの歩み、には、メダルで人気を高めたグリコのおもちゃ、オリジナルおもちゃ、紙や粘土のおもちゃ、実用小物、復活、ミニチュア化、アニメキャラクター、性別、親子で遊べるおもちゃ、エッセンスが複合的な創作おもちゃ,おとなたちの心を再びときめかせたタイムスリップ、グリコおもちゃ年表、グリコのおもちゃづくりの舞台裏ではグリコのおもちゃ開発者インタビュー、江崎グリコの原点「グリコ」として歴史的な経緯、牡蠣の煮汁に含まれるグリコーゲンを子どもたちの健康のために、子どもの二大天職、つまり食べるとあそぶを満たしたことなどを解説した。共同(全32頁)
33.『発達心理学』	共	2010年	近大姫路大学通信教育課程(文部科学省認可通信教育) pp.65～138	(小河晶子、西本望、西本佳子)「第7章愛着性の発達：親子関係の成立」「第8章社会性の発達」「第9章道徳性の発達」「第10章人格の発達」「第11章情緒の発達」について、こどもの成長・発達についてアタッチメント理論や基本的生活習慣の形成を主とする社会性の発達を記述し、さらには道徳性など、こどもと他者関係の成立にかかわる箇所を担当し記述した。くわえてそれにもかかわる、こどもの自己形成のパーソナリティや情緒の発達についても記載した。全146頁
34.『新しい教育課程論』	共	2010年	ミネルヴァ書房 pp.49～71、 pp.73～99	広岡義之、西本望、津田徹、塩見剛一） 本書は、初等教育課程についての研究者や専門職向けに著したものである。内容では、教育の目的である人格の完成を実現するため、こどもの心身の発達に応じた教育方法が行えるように教育課程の意義や編成について記述した。さらに教員養成課程においては、領域･科目のそれぞれの専門性の共通要素の一つとしての役割だけでなく、全体構造のなかで、有機体的な総体として教育課程のとらえ方を説く。さらに、ここでは理論・歴史的な動向の展開に加えて、実践的な指導計画についても示している。「４章　幼児教育課程の構成　５章　小学校教育課程の構成」
35.『子どもと文化』(子ども学講座2)	共	2010年	一藝社 pp.57～74	(村越晃、今井田道子、小菅知三、雪吹誠、宇田川光雄、おかもとみわこ、斎藤哲郎、重城哲、多田孝志、長沢ヒロ子、西本望、花輪

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				充、松井田哲、三森桂子、矢吹正憲、林邦雄、谷田貝公昭） 玩具とは、として玩具の発症の歴史や玩具の語源、その意味について記した。子どもと玩具との出会い、では愛着の移行期の対象物としてのイメージや玩具の可能性、遊びと玩具、感覚運動遊び、模倣遊び、具象玩具、素材(抽象)玩具、生活のシミュレーションとしての遊び、構成遊び教育玩具、玩具に関わる環境つまり家庭での玩具の種類、玩具の購入頻度、玩具を選択する基準などについて「第4章玩具とは」で著した。
36.『教育学概論』	共	2009年04月	昭和堂	（武安宥、成山文夫、南本長穂、竹内伸宜、加藤巡一、角本尚紀、上寺常和、廣岡義之、西本望） 学校生活でのこども精神的な評価にかかわる「11章教育相談」と、直接教育方法にかかわる「9章特別活動」を担当した。その内容は、乳幼児期から青年期へのこどもの成長と発達課題、親子関係の成立、乳幼児の愛着性の発達、母親の養育態度とこどものパーソナリティ、自立と基本的生活習慣、きょうだい関係、モラトリアム、成熟と学習レディネス、など発達・学習過程の側面、さらには、動機づけと賞罰、学習のつまづきと知的障害、LD、ADHD、CDなどこどものパーソナリティの問題のその対策について記述した。特別活動では教科の教育課程の編成や学習指導上だけでなく学校生活上の指導つまり行司や児童会・生徒会活動、クラブ活動など学習指導要領の改訂点について概説した。
37.現代保育論:保育の本質と展開　改訂版	共	2009年03月	聖公会出版	戸江茂博、大石志保、中田尚美、西本望、上月素子、柳原利佳子、日坂保都恵、前島寛子、井上裕子、村井尚子 子どもに寄り添い、子どもの最善の利益を大切にする保育、保育者と親、地域社会がつながり生み出す子育て共同体の構築について記述したものである。保育所保育指針や幼稚園教育要領の改定にも留意した。ここでは第5章「保育の歴史から学ぶ」を担当した。
38.保育原理	共	2008年4月	みらい(pp.122～147)	田中まさ子、浅野秀和、新井美保子、大江まゆ子、小栗政裕、尾上明子、白幡久美子、瀧川光治、西本望、芳香亜希子、水野道子、矢藤誠慈郎 教育課程･保育の計画について執筆した。教育・保育課程の意義や編成の仕方についてを「第8章保育の計画を作成する」にといて記述した。さらにここでは、種々の教育課程の類型など教育課程作成のための理論的歴史背景とともに具体的な指導計画作成のための手順･方法や子どもの活動の評価方法についても記述した(「第8章保育の計画を作成する」)。
39.『おもしろく簡潔に学ぶ保育内容総論』	共	2008年3月	保育出版社	（上野恭裕、岸井勇雄、塩田寿美江、西川ひろ子、北川明、渡辺一弘、白石正子、江良愛子、鈴木えり子、冨田久枝、杉山直子、島田ミチコ、高根栄美、西本望、浜崎隆司、郭小蘭、織田泰幸、後藤範子、斎藤正典、小田富也、星道子、福山多江子、手良村昭子、海野展由、三井真紀、小宮山潔子、金城洋子、野中定枝、梶原郁郎、永久欣也、古橋紗人子、新川朋子、武田京子、水崎誠、森静子、開仁志、吉弘淳一、寺島明子、瀬藤瑠璃子、高市勢津子、高月教恵、金山美和子）本書は、幼稚園課程についての幼児教育研究者や専門職向けに著したものである。内容では、教育の目的である人格の完成を実現するため、幼児の心身の発達に応じた適切な教育・保育の指導が行えるように、こどもの身体と心(精神)との発達過程を理解するために、身体各部における生理的発達、胎生期から出生、発達加速現象、大脳皮質神経系の発達、愛着の形成、発達段階と発達課題などについて記述した「第8章保育の計画を作成する」(pp.52～56)。
40.人間形成のイデア改訂版	共	2008年03月	昭和堂	武安宥、塩見慎朗、佐久間裕之、津田徹、関屋紘一、貴島正秋、長尾和英、堀和弘、渡辺嘉久、今井博、西本望、辻村英夫、佐野茂、光成研一郎、中田尚美、廣田佳彦、角本尚紀、小松茂久、上寺常和 Ⅲ部「パーソナリティの発達」と3章「学習の基本的理解と教育評価」を担当し、そこでは乳幼児期からの子どもの発達と発達課題、親子関係の成立、乳幼児の愛着性の発達、母親の養育態度と子どものパーソナリティ、自立と基本的生活習慣、きょうだい関係、モラトリアム、成熟と学習レディネスなど発達･学習過程の側面、さらに

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				は動機付けと賞罰、学習の躓きと知的障害、LD,ADHD,CD教育評価などといった技術面や新事情を含め記述した。
41.生徒指導のフロンティア	共	2007年04月	晃洋書房	塩野谷斉、中谷愛、本玉元ら 生徒指導のなかで、嘘をつく子どもに対する指導についてを記述した。そこにはうその動機、うそをつく原因、こどものうその特徴、うそへの対応と治療についてを記述した「第９章1、生徒指導の諸問題（１）うそをつく子の指導」
42.『現代保育論：保育の本質と展開』	共	2007年03月	聖公会出版	戸江茂博、大石志保、中田尚美、西本望、上月素子、柳原利佳子、日坂保都恵、前島寛子、井上裕子、村井尚子 こどもに寄り添い、子どもの最善の利益を大切にする保育、保育者と親、地域社会がつながり生み出す子育て共同体の構築について記述したものである。保育所保育指針や幼稚園教育要領の改訂にも留意した。ここでは第５章「保育の歴史から学ぶ」を担当した。
43.『関西の子育て文化』関西文化研究叢書	共	2006年04月	武庫川女子大学関西文化研究センター	中谷彪、本玉元、西本望、枡形公也、西崎亨、西嶋孜哉 関西地方での、家庭での教育方法(しつけ)にかかわる特長について探求しその内容を掲載した。こやらい、子育て様式、についてのフィールドワーク調査によって残存している伝統的な子育ての様式の発掘および現代の親の子育ての実態調査の記録を記述した。さらに歴史のなかででの子育て様式等をも記載した。
44.『ポケット教育小六法』(4版)	共	2006年04月	溪水社	池上徹、伊藤美佳子、伊藤良高、岩崎正子、遠藤晶、大津尚志、小林靖子、塩野谷斉、冨江英俊、冨田福代、中谷愛、中谷彪、西本望、西牧謙吾、西牧真里、本玉元、前原健三、水谷孝子、矢野博之 法改正の条項を新たにし、利用者のニーズに応えて、児童･社会福祉編を拡充したり、附録に豊富な資料をとりいれたりして、内容の充実をはかった。
45.『教育基本法のフロンティア』	共	2006年04月	晃洋書房	中谷彪、塩野谷斉、伊藤良高、西本望、中谷愛、大津尚志、小林靖子、本玉元、矢野博之、冨江英俊 教育基本法のなかで、第２条の教育の方針にそって、教育の機会のこと学問の自由の尊重のこと実際生活に即すこと自発的精神を養うこと自他の敬愛と協力によって、文化の創造と八手に貢献するようについて記述した。「第５章現代教育の方針としての教育基本法」
46.『保育用語辞典』	共	2006年04月	一藝社	谷田貝公昭、林邦雄、西方毅、大澤裕、柏原栄子、髙橋弥生、西本望、前橋明、本間玖美子など計129名 保育内容のなかで重視した語句類を抽出して示した内容である。本書では｢京阪神聯合保育会｣｢頌栄幼稚園保姆伝習所｣「新潟静修学校」「日本保育学会」など１３項目を著した。
47.ポケット教育小六法（第3版）	共	2005年04月	溪水社	池上徹、伊藤美香子、伊藤良崇、岩崎正子、遠藤晶、大津尚志、小林靖子、塩野谷斉、冨江英俊、冨田福代、中谷愛、中谷彪、西本望、西牧憲吾、西牧真理、本玉元、前原健三、水谷孝子、矢野博之 法改正にともなって新しい条項の加除修正を行った。付録に資料を追加等内容の充実を図った。
48.ポケット教育小六法（第2版）	共	2004年04月	溪水社	中谷彪、伊東良崇、前原健三、伊藤美香子、岩崎正子、遠藤晶、大津尚志、加藤敬子、小林靖子、塩野谷斉、富江英俊、冨田福代、中谷愛、西本望、西牧憲吾、西牧真里、本玉元、水谷孝子、矢野博之 法改正の条項を新たにし、利用者のニーズに応えて、児童･社会福祉編を拡充したり、付録に豊富な資料を取り入れたりして内容の充実を図った。
49.『保育内容シリーズ 健康』	共	2004年	一藝社 pp.23～36	(谷田貝公昭、髙橋弥生、西本望、牧野共明、今泉利、西方毅、本間玖美子、岩田香織) 保育内容のなかでも身体と心(精神)との調和を重視したものとして扱った内容である。本書では、教育の方策を探る前提としての｢幼児の心身の発達｣を著した。そこでは基本的生活習慣(しつけ)をはじめ乳幼児期から保育かかわる成長発達の過程についてを記述した。
50.ポケット教育小法	共	2003年09月	溪水社	教職研究会編、伊藤良高・岩崎正子・遠藤晶・大津尚志・小林靖子・塩野谷斉・富江英俊・富田福代・中谷彪・西本望・西牧謙吾・西牧真里・本玉元・矢野博之・伊藤美佳子・中谷愛・渡部紀子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				本書は、大学・短大で教育学や教職科目を学ぶ学生のためのものである。さらに教員・保育士採用試験に対応できるよう考慮されている。内容は５編からなり、総則、学校教育、教育振興、学校保健、生涯学習・社会教育、教育職員、教育行財政、児童・社会福祉編、関連法編、日本教育略史からなる。
51.『道徳教育の研究』	共	2002年	一藝社 pp.119-128	（谷田貝公昭、林邦雄、成田國英、橋本勝、津田徹、佐久間裕之、石橋達也、西方毅、村越晃、本多護、福司山和宏、西本望） 第12章「道徳教育推進上の課題」を担当。その内容としては、道徳教育を支えるこどもの教育の方法として、乳幼児期からこどもの道徳性形成にかかわっている、家庭の教育力、家庭と地域の連携、地域活動の教育作用などついて記述した。さらに、道徳教育に関する教師の研修について､教師の研修とその種類、人権教育、モデルとしての教師、教師の研修課程に関する内容などについて著した。
52.『人間形成のイデア』	共	2002年	昭和堂pp.111～121、135～143	（武安宥、塩見慎朗、佐久間裕之、津田徹、関屋紘一、貴島正秋、長尾和英、堀和弘、渡辺嘉久、今井博、西本望、辻村英夫、佐野茂、光成研一郎、中田尚美、廣田佳彦、角本尚紀、小松茂久、上寺常和）こどもの初期評価にかかわるⅢ部１章「パーソナリティの発達」と、直接教育方法にかかわる３章「学習の基本的理解と教育評価」を担当した。その内容は、乳幼児期からのこどもの発達と発達課題、親子関係の成立、乳幼児の愛着性の発達、母親の養育態度と子どものパーソナリティ、自立と基本的生活習慣、きょうだい関係、モラトリアム、成熟と学習レディネス、など発達・学習過程の側面、さらには、動機づけと賞罰、学習のつまづきと知的障害、LD、ADHD、CD、教育評価などといった教育課程の編成や学習指導上の技術面による記述を行った。
53.『教育のプシューケーとビオス』	共	2001年	福村出版 pp.47～69	（武安宥、広岡義之、西本望、角本尚紀、渡辺嘉久、長尾和英、廣田佳彦、佐野茂、塩見慎朗）３章「家庭における人間形成」を担当した。その内容は、インフォーマルな教育課程である家庭や地域による教育方法(しつけ)を中心に記述した。伝統的子育て観と家庭の役割、子育て観と人間形成の担い手、家庭の役割の変遷、家庭と学校・地域との連携、家庭の地域社会でのかかわり、家庭の孤立、地域教育の盛衰と学校教育のかかわり、キレる子ども、親としての自覚の喪失と養育態度（児童虐待、甘やかしと服従の養育態度）、子どもの教育・学習指導上の問題（ADHD、行為障害）、家庭教育の課題、家庭の役割の縮小と過剰な子育て、地域社会とのかかわり、生活時間と情報の流入、遊びと人間関係および倫理・道徳性の形成過程、親の養育態度とこどもの発達学習過程、学習障害（LD）の発見と教育・学習指導上の配慮・教育方法、見直される伝統的子育てである。
54.『教育心理学のエッセンス』	共	2001年	八千代出版 pp.13～69	（木村忠雄、西本望、工藤俊郎、山本昌輝、森茂起、吉岡昌紀） 本書では、第２章「発達」出生から乳幼児・児童・青年期までのこどもの発達学習過程についてを記述した。その内容は発達段階と発達課題、ハイリスク新生児・親子の分離、成熟優位説と学習優位説、親子関係の成立、愛着性の形成、移行対象、自立生活に必要な基本的生活習慣の確立、身辺の生活の自立、子育ての文化比較、きょうだい関係、一人っ子などの発達・学習過程や、児童期の勤勉性と学業不振、仲間集団、社会性の広がり、遊び場、発達加速現象、など教育課程編成にかかわる内容を示した。
55.『チルドレンワールドⅡ子どもの世界』	共	1999年	一藝社pp.14～17、92～93､156～157、180～181	（谷田貝公昭、林邦雄、村越晃、前林清和、宇田川光雄、大澤裕、岡田耕一、岡本美智子、加藤敏子、喜友名静子、高坂聡、武隈孝治、中野由美子、長澤邦子、成田國英、西本望、安田京子）Ⅰ「生活」で、こどものパーソナリティについて、きょうだい関係の成り立ちと出生順位による性格形成について記述した。長子、末子､一人っ子では、独特な性格特性が現れること、中間子には、それが見出せないこと、など独特の性格としつけ方法を記述した。Ⅳ「教育」では、明治期以来の義務教育制度が変遷してきた経緯と、地域外通学などの今日的課題を提示した。Ⅴ「環境」では、愛着性が親子間で形成される段階と、そのときに生じる子どもの行動変容の過程について論じた。さらに、うそ（虚言）には、心理的変化や精神疾患に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
56.『健康〈理論編〉』	共	1995年	保育出版社 pp.53～56、61～62	よって発現する種類とその解説、それらの対処と教育方法について著した。 （鯵坂二夫、丹羽丈司、野崎康明、瀧澤利行、安原千香子、鈴木雅裕、森司郎、田中美智子、沢田孝二、宮崎恵、三木真知子、木本節子、米谷光弘、中新晴江、奥川和永、西本望、前橋明、村田務、鈴木秀明、高内正子、中島千恵子、久保美和子、菅治子、佐々木尚美，鈴木園子、甲村君江、井原貴子、佐山幸子、富永睦子、宮脇恵子、原陽一郎、竹内里絵、詫摩元子、島田敏紀、畠山倫子、喜多村明、松田総平、渡辺則子、鍛冶則世、勝木洋子、知原文子、鐘ヶ江淳一、森井秀樹、足立正、青柳領、近藤京子、西垣吉之、田中紀代、中野ひとみ、保関建典、渡邊政也、松本嘉一、門田雄一、山手雅子、上月素子、鈴木正敏、オムリ上野慶子、田中英高、松永裕二、松本和美、神保和子、丹羽孝、早川知教、豊田弘司、根ヶ山光一、清水益治、堀田昇、染岡慎一、森山雪子、片山隆裕、安藤和彦）　保育研究を理論的な面から記述した書である。その内容は、保育者・教員養成校の学生だけでなく、母親、現場の保育士・教員など実際に、こどもに携わっている人びとが活用できることを目的とした書である。本書では、第５章Ⅱ「健康な生活に必要な基本的生活習慣の確立（獲得時期）」を執筆した。そこには乳幼児、児童・生徒の心身の健康な生活に必要である基本的生活習慣の意義と内容、さらに自立標準と時代の推移での自立年齢の変化、習慣形成にともなって留意すべき事柄についても記述した。
57.『建学の精神考』	共	1993年	関西学院	（山内一郎、湯木洋一、西本望、鳥居達也） 近代教育が時間をかけて築きあげてきた歴史的成果としての教育理念が、各学校のもつ独自の教育課程を編成するときの根源となり、人間性（パーソナリティ）形成の一助を担っている。本書では関西学院の「建学の精神」表したスクールモットー「マスタリ-・フォ-・サ-ヴィス」等についての意味を収めた。これには歴代の学長、例えばランバス、ベーツ、今田恵等、加えて中・高・大学の教員や卒業生等の文章で学院史、学院報チャペル講話、一般新聞紙上に掲載されたものを収集・再編集した。さらに本書はキリスト教主義教育の歴史的・原理的再検討を目指すとともに教育の効果を再認識するための最初の刊行物の意味をもつ。共同編集(全95頁)
58.『保育内容の研究 保育と言葉』	共	1993年	中部日本教育文化会	(川勝泰介、伊藤健次、西本望)執筆協力 保育の基本理念と保育内容、人間にとっての言葉の役割、乳幼児期における言葉の教育の目標、言葉の発達のようす、領域「言葉」の指導のねらいなど、全般について概説した。そのなかで言語についての発達段階とその過程と保育内容の領域言葉にかかわる保育実践にかかわる留意点などについて記述した。
2 学位論文				
1.（博士号学位請求論文子どもの基本的生活習慣の形成と宗教意識の獲得）	単	1996年	関西学院大学（学位取得先）	基本的生活習慣は、すでに蓄積された山下俊郎や西本脩等の先行研究の整理統合を図り、実態・報告や生活環境による観点から問題点を指摘した。さらに宗教意識の獲得については、稀少な先行研究を、回心の主たる時期である青年期までの資料を収集した。ファウラーの信仰形成段階を紹介し、祈り・礼拝・祭祀など年中行事や日常生活での宗教的行動の調査結果を示した。経済や精神的剥奪などの問題解決に生起される劇的な回心については事例研究や理論的紹介を行った。心理・社会的見地から習慣形成や意識獲得についての機序の解明を試みた。教育課程にかかわる教育実践についても道徳性との関連から類似事項を抽出したが、解釈的な面で検討の余地が残る。
3 学術論文				
1.はじめての保育実習を控えた学生の不安と期待に関する研究	共	2021年3月	『学校教育センター紀要』第6号 武庫川女子大学	本研究は、保育実習に対する学生の不安と期待に着目した研究である。はじめての実習を控えた学生は、それまで受けてきた授業とは異なり保育現場で過ごす「保育実習」に対して大きな不安を抱いている。一方で実習に対する学生の気持ちは不安だけで構成されるものではない。実際に子どもとかかわること、保育を実践的に学ぶこと、実習をとおして自らの保育職への適性を見極める機会となることなどを期待している。そうした不安と期待の入り混じる学生の心

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				情を踏まえた上で、保育実習に向けた指導の在り方を模索する必要性について論じている。あわせて2020年度前期においてコロナ禍における授業方法として取り入れられた「遠隔授業」が実習に向けた学びの中で学生にどのように受け止められていたのかにという点についても自由記述の分析を通して明らかにした著者：佐野友恵、大和晴行、鶴宏史、宇野里砂、小尾麻希子、久米裕紀子、中井光司、西本望、藤谷智子、大槻伸子、白井三千代
2.女子大学を卒業した若手教員の意識と研修課題に関する調査研究 －新卒3年目までの小学校教員を対象に－		2021年3月	『教育学論集』第16号　武庫川女子大学	女子大学を卒業した新卒3年目までの正規採用の小学校教員を対象に、若手教員の意識や研修課題及び卒業生支援に対する要望を調べ、それらに対する方策について検討を行った。調査の結果、卒業生の若手教員の多くが教職にやりがいを感じながらも、採用前の予想を上回る学校現場の厳しい困難な現実に直面し、それぞれに研修課題を抱いている実状が明らかになった。例えば、研修課題においては、日々、適切な指導が求められる「教科等の指導」、「生徒指導」や新しい教育課題である「特別の教科 道徳」などのニーズが高いことなどが明らかになった。こうした結果を踏まえ、本稿では、在学中の早い段階から教職の魅力を伝えたり、実践的指導力の向上を意識した授業内容を設定したりすることなどの教職課程の改善や、卒業後もニーズに応じた研修を提供するなどの卒業生支援の拡充についての方策を提言している。 著者：酒井達哉、佐々木顕彦、西本望、伊藤博章
3.「嘘をつく子への援助」（依頼論文；査読付）	単	2014年	『健康教室』東山書房第65巻　第2号（通巻959号）	嘘をつく子への援助として、背後に潜む問題や要因(疾病の疑い等も含む)について論じた。その内容としては、うその意味、嘘をつくときの動機、嘘をつく原因および誘発要因、家庭のしつけとの関連、養護教諭(学校)の援助方法・技術の方策、こどもの嘘の特徴への対応、こどもとその背景を理解すること、連携と留意事項についてである。
4.「おもちゃ(玩具)の循環社会での意義―こどもの発達と玩具での遊び―」（査読付）	単	2012年	『廃棄物資源循環学会誌』第23巻第3号廃棄物資源循環学会pp.2～11	玩具は子どもの認知発達において重要な役割を担っている。本稿では循環社会という視点においてどのような意味があるのかを論じた。子どもと玩具の最初のかかわり期においては大人が物の大切さや物のリサイクルの必要性を伝えることが有効となる。愛着が人間関係へ移行し始める前にぬいぐるみ玩具が喪失体験を補うものとして知られている。これらの物は大人になってもストレス解消の安定剤として玩具の秘められた機能である。模倣遊びに時期になると、具象玩具の使用として廃材の利用が行われるようになる。幼児・児童期に保育・教育活動で廃品・廃材を取り入れた遊び経験をすることで、その子どもたちが後に日常生活で物を再利用する可能性を高めることの一助となりうる。そのため廃品・廃材の提供者は廃品・廃材を活用する知識を必要とする。一方、障がい児を含めたあらゆる子どもに対する玩具としては、追加機能がある玩具を設定したりするなど、個々人に適するように容易に改造可能し、すべての人が利用できることが求められる。
5.Historical Significance of Research on Changes in the Basic Daily Life Habits of Japanese Children	単	2012年	『教育学論集』第7号武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻pp.33～41	The Basic Daily Life Habits are the developmental task from infancy to adolescence, especially junior high school students. In 1938, Yamashita described the criteria of the basic habits of Japanese children’s daily life development in their home life in Japan. In 1965, O. Nishimoto found that, with the changing of times, there is a tendency to accelerate the development of children. He proposed that the discipline of training children has to conform to the changes of the times. His research has been applied to probe the validity of the “diagnosis of mental development of children”, which had been described by Tsumori et al. (1961-1965). Furthermore, this research has been used, up to now, as the standard guideline of the process in which children develop their various basic habits of daily life, such as eating, sleeping, bowel movements, clothing, and cleaning.
6.「児童への玩具福祉の可能性」（査読付）	単	2010年	『玩具福祉の理論と実践』玩具福祉	（山﨑公子、小林るつ子、渡辺勧持、吉田浩、神谷明宏、苛原実、西本望、小松敬典、田中一秀、大須賀豊、金森克浩・谷本式慶・禿

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			学会pp.48～56	嘉人・外山世志之、金森三枝）玩具についての定義、おもちゃが口語で玩具が文語であること、手の中でもてあそべること。平安貴族女性から始まる歴史的な経緯あること。ホイジンガやピアジェなどの遊びの定義と山下俊郎、西本美節や西本望による玩具を用いた遊びの時代的な経緯などについて解説し、こどもに対して玩具による遊びによる福祉への方策を示唆した。「第6章　児童への玩具福祉の可能性」（「玩具福祉学会10周年記念誌」全95頁）
7.玩具とのかかわりについて-玩具の選択・購入者との意識-(査読付)	共	2010年	『玩具福祉研究』第8号玩具福祉学会pp.31～41	(西本望、佐藤惠、田原彩) こどもに玩具を提供する人物については、住宅地の保護者を対象にした調査で、こどもの遊び相手となる人物とは異なり、親よりも祖父母がかかわる傾向がみられたことを明らかにしている。つまり同居の拡大家族はもちろんのこと、近隣に祖父母が居住している核家族、さらには祖父母世代が遠方に居住している核家族であっても、祖父母世代が親世代より玩具の選択･購入者として優位にかかわることが明らかになっている。直近の調査でも同様に、住宅地での幼児の保護者を対象とした複数回答で尋ねた調査を実施している。幼児期のこどもを有する家庭の親世代に対する調査では、玩具購入者の1位では祖父母が最も大きな割合を占めている結果をえた。
8.母親の子育て意識―親の欲求充足と子どもとの愛着の絆との葛藤について―	共	2010年	『教育学研究論集』第5号武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻pp.41～51	(西本望、小河佳子、本玉元)従来の子育てに関する研究では、子どもの発達に母尾世あの子育ての態度や母子相互作用が、どのように影響を及ぼすかという観点のものが多かった。本稿では、こどもからの側面ではなく、その母親のとりまく身近な生活の環境、すなわちどのような状況のもとに母親と子どもが置かれていて、どのような子育て意識をもっているのかについて知ることによって、今後の母親、子育て、家庭支援の一助としたいと考えた。結果からは、親世代が孤立するとともに子育てに情緒的不案が高まり、祖父母とは同居せずに近くに居住することが親世代にとって都合がよいこと、さらに親世代にとっては、祖父母世代の子育て意識とは異なり、子育てやこどもの存在はこの活動を妨げる元とする意識があったことを見出した。
9.学習評価の工夫と改善	単	2007年04月	相生市教育研究所年報	授業評価、学校評価についての理論と方法論について解説した。とくに相対評価から絶対評価の到達どう評価に移行するときの留意すべき内容について指摘した。
10.こどもがうそをつく意味とその対処法	単	2007年03月	『教育学研究論集』	うそをつく意味とうそに対する対処方法について記述した。そこにはうそが発現する要因とうその意味、うそをつく原因および誘発要因、こどものうその特徴、うそへの対応と治療についてを示した。とくに幼児期のうそについては、ごっこ(役割)遊びなどで想像性やおとなの行うシミュレーション的な行動であることを報告した
11.玩具についての印象―玩具使用状況調査について―(査読付)	単	2007年03月	『玩具福祉研究』玩具福祉学会	玩具と遊びに関して、玩具福祉学会では、小林るつ子を代表として、障害児をはじめ、さらに彼らにかかわる人物が、玩具をどのような目的で使用しているのか、さらにその使用の状況について調査を行った。その結果から、玩具の利用者への利便性や安全性、それにともなう改良を希望する点を見出そうとした。それによって玩具を開発する作成者にも貢献できる一助を担うための基礎資料ともなる
12.The Retrospect and Prospect on Educational Ability of Family and Community in Japan	単	2006年11月	Retrospect and Prospect of Education in Korea and Japan Ewha Educational Research Institute pp.45～65	家庭では、種々の人間関係の崩壊がとどまらない状態にある。家庭を中心とする種々の問題については、1970年代後半には言われ始め、1980年代には社会現象として、にじみ出てきていた。家庭や地域の危機を訴え、警告ともとれる書が著わされ続けてきたにもかかわらず、今や地域の姿はもうすでになく、家庭も崩壊への道を突き進んでいる。こどもの成長発達を支えた家庭力と地域力の存在した時代は、まさに終焉を迎えようとしている。
13..喪失と移行対象ー心の転換と適応の過程-(査読付)	単	2004年08月	『玩具福祉研究』	自己のおかれた新たな環境に対して、適応をしようと模索しつづけるのである。ここでは、そのような人物の自己の喪失体験の状況や喪失した対象に代わる新たな対象を捜し求め、適応に至るまでの心の推移への過程について論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
14.学習障害（LD）の定義と大学教育の方策	単	2003年	『商経論集』第128号　大阪商業大学pp.81　-102	しばしば専門家と称する人びとの間でも、立場や見解によって混同して使用される学習障害の定義について、Learning DisordersとLearning Disabilityを明確な相違点等を提示した。さらに欧米で先立って行われ、日本でも広がりつつある学習障害者の大学受け入れに関して、入学時や入学後の授業での教育・学習支援などのカリキュラム編成上の方策についてを論述した。たとえば、それらの方法・技術としては試験時間の延長や授業中のノートテイカーの大学教育への導入など特別支援の方策について紹介した。
15.生活習慣の発達規準について	単	1999年	『商経論集』第112・113合併号大阪商業大学pp.847～870	生活習慣に関する発達規準は、日本独自の文化・社会的背景で設けられてきた。しかし時間の経緯による文化変容に従って、しつけ方法も変遷する可能性が示唆される。それを代表的な発達指標・診断法である、津守式精神発達診断法、基本的生活習慣の自立標準、JDDSTを通して検討した（各改訂版を含む）。各調査年代での通過年齢が一致した。したがって各標準・規準、診断法、検査に妥当性が検証された。そこには時代的推移によって発達過程の変化も示された。
16.回心と信仰形成－行動科学としての宗教現象と信仰に至る価値の転換について－	単	1999年	『商経論集』第115号　大阪商業大学pp.113～137	環境や自己自身の変化で生じる防衛機制に基づいた剥奪（対象喪失）とよばれる契機が回心に結びつく。その人物は、親子や企業組織内の相互依存関係が崩壊して、愛着や経済的対象が喪失し、混乱と苦悩が反復する動揺が継続するときに、自己の価値と現実とが乖離を感じた者である。一方で、社会・経済的地位を獲得しても凋落の不安が存在する人物や合格祈願や卜占など高水準の充足を現世利益で希求する人物は、相対的な剥奪感を得て潜在的回心を行う。
17.乳幼児期においての基本的生活習慣の形成過程と、その自立年齢の変化について	単	1997年	『商経論集』第109号　大阪商業大学pp.117～203	先行研究と近年の実態調査との比較によって、自立の年齢が変異したことが顕著な項目を抽出して、時代的変遷との関連から要因と機序の解明を行った。たとえば箸の正しい使用の遅れに伴う食事の自立の遅滞化、愛着の重要性から添い寝期間の延長化、夜の睡眠時間の減少に伴う昼寝の増加、紙おむつの使用や早期の排泄訓練よって生じた排尿・排便の事後通告・予告の遅滞化、衣服の簡易化に伴う紐結びの経験減少と遅滞化および着衣の早期化、奨励策による就寝前の歯磨きの低年齢化、などを明らかにした。
18.青年層の信仰および新宗教の教義にみるシンクレティズム様相－女子短期大学生の重層複合的宗教意識とキリスト教的要素－	単	1993年	『キリスト教主義教育』第22号　関西学院キリスト教主義教育研究室pp.145～168	社会通念上、日本では信仰対象がないとする意識を表明する者が多数派を占めるが、それらの人びとの行動は、神道、キリスト教、儒教、仏教などの宗教倫理が日常生活の行動に混在していて、シンクレティズム的様相を示していた。事例として、隆盛をみせる新々宗教といわれる教団の一つである幸福の科学の教義をみると、そこからはキリスト教的要素が抽出された。そこには混成的宗教として教義が組み合わされ、その教育プログラムの内容を現代人の価値意識と合致させることによって、信徒数を増加させる要因のひとつになっていると考えられた。宗教意識の獲得については、回心にかかわるファウラーの信仰形成段階を理論的背景とし、祈り・礼拝・祭祀など年中行事や日常生活での宗教的行動の調査結果を示した。経済や精神的剥奪などの問題解決に生起される劇的な回心については事例研究や理論的紹介を行った。心理・社会的見地から習慣形成や意識獲得についての機序の解明を試みた。教育課程にかかわる教育実践についても道徳性との関連から類似事項を抽出したが、解釈的な面で検討の余地が残る。
19.四世代家族の研究Ⅴ－ソーシャライザーとしての各世代－	共	1992年	『聖徳学園短期大学紀要』第18集聖徳学園短期大学pp.51～56	（田中まさ子、西本望）乳幼児の発達学習過程に影響を与えている世代層としては、主に二世代層（親）であったが、住環境による三世代層（祖父母ら）による影響もみられた。乳幼児と親による家族から遠方に居住する祖父母ほど、そのかかわりが少なかった。ただし、近隣に住む祖父母は、同居している祖父母と同様の頻度で幼児に関与していた傾向がみられた。かかわりの内容としては、身体的活動に基づいたものは両親、とくに母親が担っているが、物的（経済的）な面は祖父母が担う傾向があった。
20.時代の推移にともなう基本的生活習慣の変容	単	1992年	『教育学科研究年報』第18号　関西学院大学文学部教育学科pp.17～95	基本的生活習慣の自立をする年齢段階の変化について、先行研究では、時代の推移に従って早期化傾向を強調する報告がみられていた。本研究では変容してきた生活様式・構造に起因していたことを明らかにした。養育者がかつて親族・近隣など共同体によるものか

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				ら、親に限定され、その養育が少数になった子どもに集中したこと。さらに、食事様式や情報、居住空間、衣料などの生活構造の変化が、習慣形成の時期に影響を与えた要因であることが示唆された。
21.キリスト教と社会化過程－信仰形成の過程に至る子どもの宗教体験－	単	1992年	『キリスト教主義教育』第20号　関西学院キリスト教主義教育研究室（現関西学院キリスト教と文化研究センター、以下同）pp.53～74	ファウラーがコールバークによる道徳性発達の理論やエリクソンの心理・社会的情緒の発達段階をもとにした信仰形成の６段階の発達段階説を紹介した。これは個人が乳幼児・児童期以降、漸次的に信仰形成するときで、親子が同じ宗教的倫理規範をもつ場合である。劇的な価値の転換からなる信仰形成（＝回心）は、相対的な剥奪の経験により生起され、青年期の特徴とされる。それには学校教育の教育課程の内容が担い手として機能していた。
22.幼児の社会化過程と社会化担当者－基本的生活習慣の形成および教育と遊びに関与する世代層－	単	1992年	『関西教育学会紀要』第16号　関西教育学会pp.225～230	幼児の社会化に関与する担当者としては、全般的な幼児に対する関わりの頻度からは、母親、父親、祖母の順となっていた。項目別でみると、基本的生活習慣の形成については母親、教育の相談は父親、玩具購入は祖父母、レジャーが核家族では両親が中心的な役割を担う、など、事柄の相違によって担当者の役割分担が行われていた。
23.宗教的習慣の形成と体験－仏教系女子短期大学生の宗教意識と社会化担当者－	単	1992年	『人文論究』第42巻、第３号　関西学院大学人文学会pp.87～102	諸外国の認識でも、日本国内の意識としても一般的とされる仏教を教育理念としてもつ短期大学の学生を対象として調査結果から、無信仰とする学生でも、合格祈願、初詣で、墓参、神棚・仏壇の所持と拝むについては、信仰者と同様な頻度であり､相違点はない。宗教的習慣・行為は、それを意識させないほど日常生活に浸透している。信仰の自覚は、幼稚園・保育所や学校教育での教育・保育課程上の体験とともに家庭での母親や祖母から体験による影響が大きい傾向があった。
24.　基本的生活習慣についての史的研究	単	1991年	『関西教育学会紀要』第15号　関西教育学会pp.105～110	基本的生活習慣の自立標準の作成時に、山下俊郎（1936）と西本脩（1964）は当時の文化・社会的背景や育児・養育方法の意識が自立年齢をきめる要因になる考えをもっていた。つまり日本の乳幼児の発達指標となっている自立標準作成時の両者による考察は、世相を反映し、欧米の乳幼児の発達基準に対して、追従するしつけ方法に影響を与えていたことを説いていた。
25.　乳幼児の基本的生活習慣と養育者の変容－生活構造の変化と家庭環境の変容－（査読付）	単	1990年	『乳幼児教育研究』第１巻　乳幼児教育研究会（現日本乳幼児教育学会）pp.43～52	乳幼児を取り巻く環境の変容の重要な要素の一つである基本的生活習慣の形成の担い手の推移についてを示した。つまり、養育者がかつての両親を中心として祖父母など親族や近隣などによる共同体によるものから、孤立した核家族の限定される家庭環境の変容に至ったことで、保育者と教育・保育課程の重要性がこれまで以上に高まったことを示した。さらに衣服や住環境など物的な生活構造の変化が習慣形成に影響を及ぼしていることも著した。
26.乳幼児の基本的生活習慣に関する研究－食事行動とはしの使用－	単	1988年	『関西教育学会紀要』第12号　関西教育学会pp.71～75	食習慣について調査から、日本の伝統文化である箸（はし）を正しく使用することについては、幼稚園と保育所において三世代同居（祖父母同居）世帯と二世代同居世帯（核家族）の比較から、乳幼児の人間関係つまり人的な環境要因による影響が大きく、両親だけでなく保育者や祖父母からの伝承効果によって習慣化が促進されたことが示唆された。
27.山下・西本「基本的生活習慣の自立標準」についての再検討（Ⅰ）－保育所児（園児）の食事の習慣－	単	1987年	『関西教育学会紀要』第11号　関西教育学会pp.128～132	基本的生活習慣の自立標準（山下-西本脩, 1964）が作成されてから時間が経過し、それにともなう乳幼児の成長・発達過程の変化や乳幼児を取り巻く環境の変化などを考慮に入れなければならない。ここでは、ある保育課程における乳幼児の食習慣についての事例を観察および質問紙調査で行った結果で示した。これによって自立標準の再検討の必要性を示唆した。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.こども(子供)の遊びと玩具		2007年07月	玩具福祉学会	
2.The Retrospect and Prospect on Educational Ability of Family		2006年11月	Ewha womans University International Conference 3rd	Retrospect and Prospect of Education in Korea and Japan

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1．学会ゲストスピーカー				
and Community in Japan			Ewha Educational Research Institute	
3.講演「子どもの性格のできかた」		2006年1月16日	とよなかファミリー・サポートセンター	子育て支援をしている援助会員を対象に、子どもと発達や子どもと親との関係が、のちの子どもの望ましい人格形成に至ることや子育てからくる子どもの問題行動や親の子育て不安などとしつけの方策および対処法について講演した。
2．学会発表				
1.大会企画シンポジウム「地域の世代間交流活動」	共	2018年10月	『日本世代間交流学会第9回大会要旨集』(於：武庫川女子大学)	域での活動として、芦屋市と西宮市を地域基盤とした連携・協働活動や事業による、子育て支援、児童・生徒等の放課後支援事業にかかわる子供居場所事業等について話題提供と討議をした。コープこうべによる地域連携による活動、たとえば子育て、助け合い、小・中・高校生の居場所、環境でのつながりを紹介。文教都市の取り組みとして、義務教育諸学校の放課後子供の居場所事業について報告。指定討論に、子育て支援施設「あーち」など地域活動に自らもかかわりながら各自治体の教育・福祉計画に携わる伊藤篤、文部科学省・各自治体のボランティア・社会教育・生涯学習計画を担わている今西幸藏を迎えて、意見交換をした(企画・司会：西本望、話題提供：CooP芦屋、西宮市放課後児童支援事業指定討論：伊藤篤(甲南女子大学)、今西幸藏(神戸学院大学))
2.【実行委員会企画シンポジウム】「あらゆる子どもシンポジウム1 「保育と医療」	共	2017年5月21日	日本保育学会第70回大会(於:川崎医療福祉大学) (西本望、神田美子、猪熊弘子、入江慶太、岩田力)	保育と医療」に焦点をあて、種々の専門職者のかかわり、教育・保育活動への取り組みと課題や養成課程の立場から考究した。長期入院にあっても、遊びが日常風景のようにみられ、保育の質の指標がみられる。遊びの種類には多様性があり、主体性が尊重され、遊びに没頭し、持続性や展開もみられる。外部委託には厳しい衛生・危機管理が施される。日常の幼稚園や保育所、認定こども園でも医療にかかわる事柄、たとえば検診、けが・疾病の予防や治療がある。すなわち活動の維持にも、それをするがゆえに医療的行為が必要となる。そこで教育課程・指導計画（CU）やプログラムの編成、異種の専門職者での連携協力態勢、実践活動などについて論じた。そのなかでも保護者の要請や種々の制約あるいは障壁や課題に対して、人的資源を含めた環境整備や活動内容の方策による学びや育ちの変容や効果について討議した。
3.【学会企画シンポジウム】保育実践の「知」の交流と批判的検討の可能性Ⅱ－実践の当事者性を持った「問い」からどのように研究論文を作成するか－	共	2017年5月20日	日本保育学会第70回大会(於：川崎医療福祉大学)	(戸田雅美、西本望、門田理世、虫明淑子、亀山秀郎、河邉貴子)実践の当事者性をもった「問い」や「発見」を自覚化し磨いていくか。先行研究から「問い」や「発見」のもつ研究的意味を確認しうるか。さらに、その「問い」や「発見」を明らかにするのに最もふさわしい方法をどのように工夫するのか。データ収集の方法も、収集したデータを分析する方法も、実践の当事者として子どもと向き合ってきた中で見出した目的だけに、研究方法についても葛藤を抱える。倫理的配慮についても困難を伴う。これらの問題を解決できるヒントを、これまでに保育実践の当事者性をもった会員にシンポジストとして話題提供をしてもらい探った。実践をまとめていると同時に、前編集常任委員であった委員としてのご経験も話した。
4.保育現場と養成校との連携に関する研究	共	2016年8月26日	全国保育士養成協議会第55回研究大会 鎮朋子（梅花女子大学）張貞京（京都文教短期大学）森知子（聖和短期大学）太田顕子（関西女子短期大学） 大橋喜美子（神戸女子大学）大森弘子（佛教大学）小寺玲音（頌栄短期大学）永井久美子	保育現場では人材不足が深刻な問題になっているが、養成校においては免許資格を取得しても保育現場への就職を希望しない学生も見受けられる。一方、学生の実習受け入れ先である実習園の保育者にも、記録や指導案のチェック、日々のかかわりへの指導等、大きな業務負担があることも事実である。また、昨今の学生の傾向からは、実習でそれらの保育業務の負担感を経験したことで、子どもとかかわる意義深さよりも負担感の軽い進路を選択する傾向があることも否めない。 本研究では、実習指導に着目し、学生が保育者になる熱意を保ち続ける実習指導のあり方について検討することを視野に入れながら、まずは実習受け入れ先である保育現場の指導体制を調査し、相互で協力して保育者育成に取り組める方向性を模索する。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2．学会発表				
			（神戸女子短期大学） 西本望（武庫川女子大学）平野知見（京都造形芸術大学）松尾寛子（神戸常盤大学）三宅茂夫（神戸女子大学） 山田秀江（四條畷学園短期大学）	
5.【学会企画ワークショップ】「よりよい保育研究に向けて-研究倫理事例を中心に」	共	2016年5月8日	日本保育学会第69回大会学会企画Ⅲ　研究倫理問題特別ワークショップ】（於：東京学芸大学）	(名須川知子、小川清実、西本望）本ワークショップは、2007年に本学会で刊行された「保育学研究倫理ガイドブック」に続く倫理事例集作成を目的として設置された委員会を母体として、会員の倫理意識を高めるためにワークショップ形式で実施されたものである。まず、小川清実から研究における基本的な倫理について、研究上、知っておかなくてはならない行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用等、科学研究上の倫理について説明がされた。次に西本望から、特に保育現場からの一連の研究報告のあり方について、具体的事例を交え、そのケースでの問題点の提示も含めて説明がなされた。その後、参加しているメンバー5～6人のグループで研究倫理について意見交換を40分程度行った。
6.【学会企画シンポジウム】「乳幼児教育・保育の質を維持・向上するための方策と課題―導入過程から実践活動での保育者の重要と葛藤について―」	共	2016年5月8日	日本保育学会第69回大会学会企画Ⅱ　課題研究委員会シンポジウム】（於：東京学芸大学）	(西本望,若月芳浩、猪熊弘子、飯田美和、北野幸子、遊佐早苗、大宮勇雄、諏訪きぬ)猪熊氏が保育の危険性・安全性、いのちの重みについて鋭くルポルタージュしてきた経験から、視察内容について保育の質を述べる。 つぎに飯田氏と遊佐氏が実践で携わってきたことについて率直な意見を提供する。両者には、夫々理論的助言者として北野氏と大宮氏が同席する。飯田氏と遊佐氏は、育課程や保育指導計画についての改編、ドキュメンテーション(北野)やラーニング・ストーリー(大宮)を導入するための意思の変革、同僚との共有、保育の質の向上を推進しようとする教職員に資するだけでなく、それを躊躇している者にとっても契機となり朗報となる。
7.【学会企画ワークショップ】：保育臨床に関わる資格検討委員会	共	2015年11月	日本乳幼児育学会第25回大会(於：昭和女子大学)	(神長美津子、菊野春雄、境愛一郎、上田敏丈、濱名浩、西本望、小田豊) 日本乳幼児教育学会では、2010年度から4年間、試行的に保育臨床コーディネーター・ワークショップを実施してきた。このワークショップは、本学会の社会貢献の一つとして、一人一人の学会員が自分の研究だけでなく、その研究成果を多くの方々にひらいていくことが必要であり、学会員としての責務であるということからスタートした。本学会企画シンポジウムでは、改めて学会の社会貢献に立ち戻り、今後、この保育臨床コーディネーター研修の成果をどのようにいかしていくかについて、それぞれの立場から論じ、これからの方向を検討した。[岩立京子の代行として登壇]
8.【学会企画ワークショップ】「質の高い保育は実現できるのか　―今、遊びを通した保育が問われている―」	共	2015年5月	日本保育学会第68回大会(於：椙山女子学園大学）？西本望,渡辺英則,若月芳浩,北野幸子,猪熊弘子,児嶋雅典,諏訪きぬ)	2011年度以来前委員会に至るまでの実績を基盤として「保育の質」のテーマを踏襲しながら、その探究を継続的に図り、質の高い保育(教育・学習)を実施する課題等を新たに問題提起する。そこでは保育の質を担保・向上するためには、どのような遊びを通した教育・保育をしていけばよいのか、について考究した。従来の研究には、構造的要因から、とくに職員の資質、職能にかかわる「職員の教育・資格・研修」に焦点をあてて、保育者養成および研修制度によって、保育者の質を維持・向上する観点からの意義について説いていた。成果主義的な立場「できる・できない」ではなく、能動的な学び手として子どもをとらえる必要があるため、保育の質を評価することは、園・施設の全体計画である広義の教育課程での一連の流れのなかで実践したことを省察し、子どもの望ましい成長・発達のために、それを、よりよく改善するための方策として有効な手順となる。
9.シンポジウム「こど	共	2012年12月	日本乳幼児教育学	こどもといのちにかかわる種々の立場、ボランティア、親・家族、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
ものいのちの教育」			会第22回大会（於:武庫川女子大学）（西本 望,押谷由夫、神田美子,奥田早苗、光成研一郎）	保育者、保育者養成の実践活動の取り組みや課題について意見交換を行った（2008,2009,2010,2012）。そこでは実践やケアを受けた人びと、つまり疾病や障がいのあるこどもやその家族の心の変化、それらとともに視聴した学生たちに心的変化があったことも報告した。本シンポジウムでは、とくに「いのちの教育」に着目しながら、①入院治療中のこどもと家族にかかわる活動を、日本で最も早期から実施している立場から、②医療機関での保育を行う立場から、③災害支援プログラムなどにかかわる立場から、各活動を実施するうえでの話題提供した。これら実践の経験知を、こどもにかかわる保育・教育実践や保育者養成のために、道徳・倫理観の形成について保育・教育課程やプログラムに、どのように還元していくのか、など教育の創生について考究した。
10.シンポジウム：こどものいのちとともに幸せに生きる	共	2012年5月5日	日本保育学会第65回大会(於：東京家政大学)	（西本 望,神田 美子,柴田 直峰,坂下 裕子,菅井 敏行,長谷 雄一）こどもといのちにかかわる種々の立場、たとえば、ボランティア「保育士導入の小児病棟におけるボランティア活動」特別支援学校の分教室（院内学級）が設置されていたが、就学前の乳幼児には別段手立てがなく、「にこトマ」の活動が保育の肩代わりとなったこと、親・家族「神田美子氏「にこにこトマト」の“くらし”による救い、家族として保育者養成者として」入院がそれほどの違和感なく病児との“くらし”になったとき、治療以外でのこどもとのかかわりを考えるきっかけとなったこと、「紙芝居を通して考える親子の絆」種々の実践活動や体験から、保育・教育での取り組みの現状や課題などの話題提供によって、幸せに生きることについて論を進めた。
11.口頭発表「自閉症の生徒への視覚的教材教具-学校生活で自立した生活行動をするための板磁石やカードを使った実践-」	共	2011年	ATACカンファレンス2011（於：国立京都国際会館）	（関根優子、西本望）近年その指導法が着目されている発達障がいにかかわる生徒について実践活動事例。障がいのある生徒に対する具体的な支援方策・技術についてであるが、克明に残された実践記録をもとに、記述・分析されているところに意義がある。つまり教育実践活動過程での教師と生徒との多岐にわたる指導においての会話場面を時間的経過とともに、そのやり取りを詳細に記録していて、教育効果の有無を明らかしている。さらに新奇性の一例としては、自閉性障がいの生徒に対して、TEACCHのような図絵といった視覚情報による手段を用い構造化した支援とは異なり、文字情報を当該生徒に提示し、理解の方策をとっている。本文字カードによる手法は、方法・技術は即実践的な支援手法である。くわえて本論中の実践例には、成功例だけではなく、失敗談も記載していて、その省察も記載していて、教育現場に還元・貢献できる内容でもある。
12.シンポジウム：こどものいのちと未来 －いのちの重要さを知り、インフルエンザ等感染症から守る、その対策と教育実践－	共	2011年	日本乳幼児教育学会第21回大会（於：東京成徳大学・東京成徳短期大学）	（坂下裕子、菅井敏行、長谷雄一、西本望）先の報告（神田・坂下・奥田・中原・西本,2008；神田・坂下・中原・西本,2009）にかかわる実践やケアを受けた人びと、つまり、疾病や障がいのあるこどもやその家族の心の変化について報告した。これらの話を実践者から受けた学生たちが、実践、ケア、教育による心的変化や学習効果についても報告してきた（柴田・長谷・入江・西本ら,2009）。このたびのシンポジウムでは、とくに「いのちの教育」に着目しながら、①直接に疾病のこどもとその家族にかかわる活動をしている立場から保育者養成校での講義体験から、②感染症医療にかかわる立場から、インフルエンザ等感染症予防の方策など生命を守る重要性について話題提供をしてもらう。さらに③保育者養成校における学生にかかわる教員の立場から、教育的な効果についての話題提供をしていただいて、これからの「こどものいのちと未来」について考究した。
13.シンポジウム：こどものいのちとともに生きる －医療機関において、こどもによりそう実践と救い、その保育者養成－	共	2010年	日本乳幼児学会第20回大会（於：関西学院大学）	（神田美子、柴田直峰、入江慶太、西本望）これまでの話題提供・シンポジウム（2008,2009）にくわえて、先の報告にかかわる実践やケアを受けた人びと、つまり、疾病や障がいのあるこどもやその家族、さらには実践者による教育を受けた学生たちが、実践、ケア、教育によって、どのような心的変化がみられたり、学習による効果が得られたりしたか、について報告してきた（柴田・長谷・金森・入江・西本,2009）。このたびのシンポジウムでは、とくに「にこにこトマト」に着目して、①直接こどもと家族にかかわる活動をして

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2．学会発表				
				いる立場、②こどもと家族の立場、などこどものいのちとともに生きる活動について論じた。さらに③疾病を有するこどもとかかわる専門家を養成する立場、から資格とその養成課程での教育課程・内容についての話題提供から、これからの「こどものいのちとともに生きる」ことについて探求した。
14.シンポジウム：ちいさないのちによりそって	共	2009年	日本保育学会第62回大会(於：千葉大学)	（神田美子、坂下裕子、中原朋生、西本望） こどものちいさないのちによりそっている人びととかかわる人びとの組織的な取り組みについて話題提供者から各組織の内容と課題とについて報告してもらう。たとえば、専門的知識を有してこどもによりそうボランティア集団、こどもの危機や最期によりそう体験をした親・家族、医療的知識をもってこどもによりそう保育者を養成する教育機関から、それぞれの立場から話題提供をして頂いて、こどものいのちとのかかわりについて、今後の展望について論を進めた。
15.シンポジウム：「こどもといのちと教育･保育とⅡ－疾病や障害のあるこどもと家族への実践やケア、さらには学生への教育が及ぼす効果－」	共	2009年	日本乳幼児教育学会第19回大会(於：川村学園女子大学)	（柴田直峰、長谷雄一、金森三枝、入江慶太、西本望）これまで、こどもといのちとその教育・保育に直接かかわる種々の立場、たとえば、ボランティア、親・家族、保育士、保育士養成から、それらの実践などの取り組みや課題などについて意見交換を行ってきた（たとえば神田・坂下・奥田・中原・西本,2008；神田・坂下・中原・西本,2009）。本シンポジウムでは、先の報告にかかわる実践やケアを受けた人びと、つまり、疾病や障がいのあるこどもやその家族、さらには実践者の講演などによる教育を受けた学生たちが、実践、ケア、教育によって、どのような心的変化がみられたり、学習による効果が得られたりしたか、について探求した。
16.シンポジウム「こどもにいのちと教育･保育と」	共	2008年11月	日本乳幼児教育学会第18回大会(於：大阪キリスト教短期大学)	神田美子、坂下裕子、奥田早苗、中原朋生、西本望 京都大学病院小児科ボランティアグループ｢にこにこトマト｣事務局代表ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの働き、インフルエンザ脳症でこどもを亡くしたものとしての｢ちいさないのち｣代表･グリー不ケア研究怪獣無局としての活動･講演、兵庫県立こども病院で疾病のあるこどもへの保育活動、全国で最初の医療専門を有した保育士要請の医療保育科の役割について話題提供をし、それらについての質応答を行った。
17.玩具とのかかわりについて-玩具の選択･購入の意識-	単	2008年05月17日	日本保育学会第61回大会(於：名古屋市立大学)	先行研究･資料から時代的な比較をすると、アニメ･キャラクターおよび戦隊･ヒーローものが各時代で販売･購入の主たるものを占める。一方で、人形、ぬいぐるみ、積木、ブロックは1980年代から各家庭が所有する傾向にあった。玩具の取扱いについては、玩具が膨大にあふれるといわれる状態にあっても、飽きてしまう傾向はみられなかった。大切にしている者はぬいぐるみに傾向がみられたものの特定な玩具にはなく多様に渡っていた。
18.家庭の多様化と形骸化：こどもの教育を担う家族関係の崩壊と消滅	単	2007年06月9日	日本人間関係学会第14回関西地区会（於：大谷大学）	家庭では、種々の人間関係の崩壊がとどまらない状態にある。家庭を中心とする種々の問題については、昨今噴出してきたのではなく、以前から社会現象としていわれていた。その危機を叫ぶ声も効果はなく、各家庭を支えた地域社会の姿はもうすでにない。しかも夫々の家庭では、こどもの成長発達ための家庭教育を支えた家族関係の姿は、多様化と称して崩壊したり形骸化したりして消滅している。これらのことを報告した。
19.親の活動欲求充足と子どもとの愛着の絆との葛藤について	共	2007年05月19日	日本保育学会第60回大会（於：十文字学園女子大学）	(西本望・本玉元)子どもが家の中を散らかす行為が、整然さを維持しようとする親世代の欲求を妨げる。親世代は、自己欲求を充足させることを優先し、子どもであろうと排除する。子の存在が、夫婦関係の絆を維持するかすがいの役割は過去のこと。子どもが疾病となって子どもの活動が普段より低下すると、元の健康状態に戻るよう原状回復を願うが、元気な状態(健常)となると、子どもの種々の行為が、親世代の自己活動を妨げるとみなしていた。
20.家庭力・地域力の終焉	単	2006年10月13日	教師力・学校力研究会(後援：大阪府教育委員会・大阪市教育委員会)	家庭では、種々の人間関係の崩壊がとどまらない状態にある。これらは昨今噴出してきた問題ではなく、すでに1970年代後半には言われ始め、1980年代には社会現象として、にじみ出てきていた。家庭や地域の危機を訴え、警告され続けてきたが、今や地域の姿はもうすでになく、家庭も崩壊への道を突き進んでいる。こどもの成長発達を支えた家庭力と地域力の存在した時代は、まさに終焉を迎えようとしている現状について指摘した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
21.フォーラム・関西子育て事情----関西流子育ての「ルーツ」と「今」を探る	共	2004年12月11日	第3回MKCR研究集会（於：武庫川女子大学関西文化研究センター）	西本望・本玉元・鈴木昌代 子どもについての見方・考え方」について世代間で違いがあるかどうかの状況を把握するために小調査を実施した。子どもを育てるにあたり、祖父母や母親が子どもをどのように見、どのように考えているのかについて相違があるのかを把握しようした。
22.祖父母との居住形態と母親の養育意識	共	2000年3月29日	日本発達心理学会第11回大会（於：東京女子大）	
23.宗教的習慣の形成と体験---仏教系女子短期大学生の宗教意識と社会化担当者---	単	1992年10月10日	日本教育社会学会第44回大会（於:岡山大学）	
24.基本的生活習慣と宗教的習慣の形成---家庭内の社会化のエージェント---	単	1992年5月5日	日本保育学会,第45回大会（於:お茶の水女子大学）	
25.社会化担当者と幼児の社会化	単	1991年10月13日	関西教育学会,第43回大会（於:京都大学）	
26.宗教保育と社会化過程---子どもの信仰形成の過程と担い手----	単	1991年5月24日	日本保育学会,第44回大会（於:神戸女子大学）	
27.基本的生活習慣についての史的研究---自立標準作成時の見解について---	単	1990年10月27日	関西教育学会,第42回大会（於:流通科学大学）	
28.家庭環境の変容と基本的生活習慣	単	1990年5月19日	日本保育学会,第41回大会（於:松山東雲短期大学）	
29.乳幼児の基本的生活習慣に関する研究Ⅲ---食事行動，特に家庭の機能との箸の使用について---	単	1988年5月22日	日本保育学会,第41回大会（於:広島大学）	
30.乳幼児の基本的生活習慣に関する研究Ⅱ	単	1987年11月7日	関西教育学会,第３８回大会（於:佛教大学）	
31.乳幼児の基本的生活習慣に関する研究Ⅰ	単	1987年5月31日	日本保育学会,第40回大会（於:東京家政大学）	
32.山下-西本「基本的生活習慣の自立標準」についての再検討	単	1986年11月9日	関西教育学会,第38回大会（於:滋賀大学）	
33.子どものけんかといじめに対する親の意識	共	1986年6月7日	日本保育学会,第39回大会（於:日本福祉大学）	
３．総説				
1.研究奨励賞選考理由【論文部門】「小児病棟における認定資格を有していない保育士の専門性の検討」 入江 慶太（新見公立大学）	単	2023年12月31日	日本保育学会『保育学研究』第61巻第3号pp.86－87	本研究論文は、医療的ケアにかかわる貴重な論考である。つい最近でも報道で新しい職種として紹介されたが、筆者は既に約20年にわたり専門職養成とともに研究実績を残しておられる。論文内容は、社会的に有用性を要望されている医療機関で働く保育士の専門性を問う研究として非常に有意義なものである。選考委員会での推薦理由は次のとおりである。 1.小児病棟で働く保育士の専門性について先行研究をつぶさに調べるとともに、実践されている保育士の意見聴取を行っている。とくに入院療養中の子らへの保育に携わる保育士のうちで、およそ80%を占める認定資格を有さない保育士を、医療保育士やCLSなどの有資格

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
				者とで比較検討している。 2.分析対象とする先行研究となる論文をあらゆる方面から調べ上げ、その膨大な数を的確にスクリーニングして精査している。 3.調査手続きも明瞭で、研究結果について十分なデータ分析がされ、信頼性の高さが読み取れる。 4.調査協力者としての保育士と、さらなる専門の認定資格の有無とともに、正規と臨時に至る雇用形態からも、専門性の認識の違いを明らかにしている。しかも継続した専門性を高めるための研修について示唆が得られている。今後の保育士養成プログラムに含めるべき病棟保育に関する訓練の必要性と方向性も示している。すなわち病棟において、医療行為を実施しないものの、疾病などの症状や対処法など医療行為の知識を有することによって、小児（乳幼児、児童、青年）の病歴や症状の実情に応じた保育をおこなえる。 なお、当該委員会の要望を申し上げると、医療保育の専門の有資格について、強く必要性を提唱して頂きたかったところがある。ただし筆者の謙虚なお人柄、元同僚や実践現場の保育士たちに依拠しているような意向も行間からも読みとれ、論文評価とは別に好感のもてるところでもある。 以上より、本論文内容は、医療保育の質の向上に資する新規性・創造性のある研究で、明白な証を示され、研究価値とともに実践的価値も高い。加えて筆者は、前任校より、長年にわたり医療保育士養成課程に携わって以来の課題についても含めて記している。本委員会としては、第一に推挙することに合議した。
2.研究奨励賞選考理由「保育従事者の履行意向を規定する要因(庭野晃子)」	単	2021年12月	日本保育学会『保育学研究』第59巻第3号pp.105-106	保育の量的拡大のなか保育従事者の離職という相反する問題の発生に切り込んでいる。特徴を4点あげる。1.要因を、明らかにしたところに、現代的な着眼点がある。しかも、これまで経験則、たとえば離職の低い傾向には、年齢が高い、有配偶者、給与が高い、離職の高い傾向には、勤務園数(離職数)が多い、勤務日数が多い、労働時間が長い、などを統計的に示している。2.先行研究を、多岐にわたる職種から幅広くとらえ、先行している看護職などの比較研究から、保育従事者に係る研究に至るまで、つぶさに押さえその傾向の裏付けるとともに要因の相違も示し、問題解決の遠因までを捉えようとしている。3.従来の研究にみられた離職者に対する意見調査ではなく、現職の意見、つまり離職意向について「考えている」人びとに焦点をあてて調査協力を得ている。4.WEB調査による研究は、これまで調査協力者が不特定多数であったり、回答の重複等を未然に防ぐことができなかったりするなど課題があった。しかし本研究による調査方法では、特定の企業に依頼し調査協力者を保育所に勤務しているものに限定できているため、これら弊害を防いでいる。当該方策により、対面式調査が困難な状況となっても、限定的な対象を調査協力者とすることが可能となり、妥当性のある道を拓くものである。上記以外にも意見も出ている。1.調査協力者である保育従事者の母集団には、無資格者も存在し、先行研究ではみられなかったことから、あえて含めていることを言及している。しかし、混在を認めてしまうと、保育の質を担保することに危惧を有し、法曹界や医学界などではありえない違和感がある。つまり、保育者養成校は有資格者を輩出することに使命がある。すなわち保育の質の保障とその維持向上を含めて、社会からの要請もある。したがって、それに貢献する研究内容をも展開してもらいたい。2.離職に至る複合的な要因や社会的な背景も含めた構造的な問題把握、さらには結果から次の目的がどうあるのかが明確ではないところがある。これらについても検討してもらいたい。3.WEBや業者委託による調査は利便性が高いが、それらを安易に使用することないようにしてもらいたい。研究者自らが調査協力者に脚を運び、対面しながら密にかかわり、配慮すべきことを熟考し、調査の方法や手順についても試行錯誤するなど汗水たらすような作業をしてもらいたい。
3.書評「『都市に誕生した保育の系譜―アソシエーショニズム	単	2021年3月	『保育学研究』第58巻第3号	1920年代から1930年代にかけて東京と大阪とで、保育所や幼稚園等を創立しようとする先人たちの志と経緯について記述している。第Ⅰ部のスラムの救済にあたる保育事業とアソシエーション、第Ⅱ部

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
と郊外のユートピア―』 福元真由美 著 世織書房」				の理想郷を求めた幼稚園教育、これら対極にあるものが併置されて収められていることで、かつて独立した研究の印象であった保育所と幼稚園の歴史が同時に見ることができる。これが本書の最たる特徴となる。しかも、そこには両者にかかわる賀川など同一人物の考えの変革に触れられることにも大変興味をそそられる。前者にあっても郊外保育などと称し、都市中心部の劣悪なスラムの環境から離れて山河に触れる保育を試みていることを明らかにしている。神戸について、大阪とは大きく異なった文化圏として発展していたので、記述に違和感を覚えたが、杞憂に過ぎない。その頃より既に通勤圏の宅地としての片鱗をみせていた。直接に歴史の証人である実践者と研究者との調査協力を得ていること、新聞・婦人誌等種々の紙誌、芸術、市史、鉄道・ゼネコン関係社史、さらには企業広告にも目を通しておられる。COOPこうべの創始者賀川に関する著述には、彼自らのものとともに膨大にあって、それらを読み解くだけでも莫大な手間をかけられて、一次資料や先行研究につぶさにあたり、こどもの権利を尊重し掲げ、スラムでの教育・保育のアソシエーションによる子育て環境を改善する実践に勤しむとともに、そこでの彼の挫折と葛藤の機序が示されている。自らの子をそこでは育てずに、遥か離れた理想の地に委ねてしまう。しかもそこには真逆の中産層向けの自然教育、その時代の社会背景による愛の倒錯についても記している。示されている事柄は、現代社会の課題や先進的な保育実践が描かれているかのようとらわれる。時代的な背景こそ異なるものの、家族関係の崩壊、虐待、経済格差と貧困、個人主義から協同(協働)、震災と復興、家庭教育、自然教育、翼賛体制ナショナリズムへの転向など、このような先人たちの保育に係る課題や実践改善の積みあげを、活かしきれずにいることに、警鐘を示しているのかもしれない。歴史研究としての貴重な資料であるのはもちろんのこと、家庭や親子の状況を、現代の家庭と保育界の実践の課題解決に示唆を与えてくれる。
4.書評「高橋洋子・川戸道昭・三浦祐之・米村佳樹(編著)『教育紙芝居集成 高橋五山と「幼稚園紙芝居」』図書刊行会」	単	2018年12月	『保育学研究』第56巻第3号(255ページ(543ページ))	本書は、高橋五山による幼稚園紙芝居についての膨大な資料をカラー印刷によって掲載している。それは、いわゆる街頭紙芝居 とは異なり、教育紙芝居として歴史的資料としても、もちろんのこと、こども(児童)文化財としても、有用なものである。たとえば、「赤頭巾ちゃん」「オニノツリハシ」「かぐや姫」など、グリム童話、ノルウェー民話、日本の昔話、さらにはポターやキャロルによる、現代でも人気のある物語も所収されている。それぞれの紙芝居について解説が付されていて、明治、大正、そして戦時下を含む昭和における社会的背景を俯瞰できる。それらとともに『保育要領』や旧『幼稚園教育要領』との関連も示されていて、それを抽出すると、教育課程や保育の計画を編成するときにも、有効な方策ともなりうる。今この場であっても、実践者が、それぞれの物語を魅力あるものとして目前のこどもに実演できることが可能となる教材研究のための書でもある。 つまり本書は、幼児教育保育に関しての歴史、児童（こども）文化財としての学術的価値を有するとともに、保育実践で使用する際にも、それぞれの紙芝居が、どのような意味をもっているかを把握できる手引書ともなりうる。すなわち、本書は、先人の遺産として伝承していくだけではなく、現代の保育実践活動や、さらには将来の保育界にとっても資するものとなる。pp.245-246(533-534)
5.総説「子どもの生活における家庭の役割と教育・保育との連携」	単	2017年12月	『保育学研究』第55巻3号	子どもの生活、家庭や家庭教育にかかわる特集を、佐々木(2002)にならって列挙すると次のようになる。「園保育の家庭」1973、「家庭の養育態度」1985、「保育力を高める家庭と園の相互支援」1994、「幼児期の家庭教育」2002がある。これらに関連の深い地域や子育て支援にかかわる特集を含めると、「地域社会の中の子ども」2006、「子育て支援」2014の巻号も加わることとなる。それほど関心の高い事柄である。 ここで家庭の教育力が低下してきた、と1980年代に指摘されてから久しい。しかしながら教育力が低下したのは家庭自体の機能というより、むしろ地域社会が喪失したことに要因がある。つまり地域社

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
				会が有していたしつけや安全などの子育て共同体的機能が失われたことによって、これまで親族組織や地縁で支えられていた家庭教育が成立しにくくなったとみなされる。却って、家庭では、少数となった家族成員間での相互作用は一層強くなった。そこではパーフェクトマザーを目指す保護者と子との密着した関係が濃くある。一方で、それに耐えられない保護者が子育てを投げ出し、子を放任・遺棄する状況にあるのかもしれない。しかも私的空間を重視した各家庭では、互いに他者からの干渉を好まないし、さらに他者への干渉もしない状況にある。それゆえ、もし家庭内に不適切な子育て(養育)があっても、干渉を避け外界と遮断された、あるいはしているため、それを抑止、改善することはできない。 日本社会で育った人びとには、Winnicott,D.W.のいう、good enough mother「ほどよい母親(保護者)」は存在しないし、それを目指しても、なれる人物がいないのかもしれない。かつてのように地域の人びととの相互依存を期待するような過去に還れないし、戻せない。もし日本人が「ほどよさ」を実施するには、それをパーフェクトに遂行するために、種々の方策を意図的に設けて、形づくることになる。このたびの特集は、新たな日本型子育て支援の方策として示唆を与えるものになるかもしれない。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.成長期の玩具の必要性について	単	2017年5月1日	『月刊トイジャーナル』1279号	ＯＥＣＤ報告で紹介質の良い教育保育を受けた子どもが成長して成人すると、社会的経済的地位が高い傾向ある。乳幼児期から始まる教育保育の特徴である「遊び」を通した学習の過程（プロセス）において、子どもは玩具との関わりにより、認知的能力と非認知的能力とを獲得しながら成長する。ごっこ遊びなどで玩具を用いて、物語を作り、家庭内役割や色々な職種の業務についてシミュレーションとして演じます。そこには主体的な取り組み、没頭、新しい発見、仲間とのつながり、さらなる活動の展開や深化があります。それは後の勤勉性、すなわち教科的な学習活動の取り組み姿勢での持続性や集中力が、培われている。これらの非認知的能力は、社会的経済的地位との相関が高いことも示されています。つまり社会の形成者は、子どもと玩具の関わりからも成り立つことを解説した。
2.質の高い保育は実現できるのか	単	2015年12月	『保育学研究』第53巻第3号(全177ページ)	(pp.81-82)
3.「ドリームキッズプロジェクト」(江崎グリコ株式会社)		2008年		
4.記事「お菓子で親子のコミュニケーションを育もう」(江崎グリコ)『あんふぁん』サンケイリビング新聞社		2007年		
5.研究ノート「八重山列島島嶼部の子育て意識」	共	2007年	『教育学研究論集』第2号P.P91～95	（西本望・中谷彪）比較子育て研究として、古代から独自の文化を築きあげ、関西の文化的影響が最も少ない地域として選出し、調査をおこなった。南西諸島八重山列島の石垣島(石垣市)北東部集落兼城の子育て状況を調査した。入植者達は沖縄本島など近隣の島々からの人たちで、それらの島々の伝統を引き継いでいた。現代ではそれらのほとんどが、開拓を放棄し元の出身地に帰郷した。小浜島では日常会話は、標準語を用いている。竹富島のように伝統的な言葉を使用していないので、現代ではそれを復活する試みがされている。したがって内地や竹富島に残っているような子育てにかかわる伝統的なことばは存在しない。
6.研究ﾉｰﾄ「八重山諸島における「子育て文化」調査―沖縄県石垣	共	2007年	『教育学研究論集』第2号P.P83～90	（中谷彪・西本望）調査地の竹富島は他党からの入植や移転を厳しく制限しているため、人口の出入がほとんどない。しかも八重山列島の離島：竹富島(竹富町)日常会話は、伝統的な言葉を使用するよ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
市･竹富島における聞き取り調査メモ―」 7.「福祉活動とおもちゃの世界」セミナー、おもちゃみらい博　共催（共催：横浜市、横浜観光コンベンション・ビューロー、後援：横浜市社会福祉協議会、横浜おもちゃフェスタ実行委員会、経済産業省） 於：パシフィコ横浜		2003年	於：パシフィコ横浜	う心がけているようである。したがって竹富島は子育てにかかわる独特なことばが存在しているようである。 共催：横浜市、横浜観光コンベンション・ビューロー、後援：横浜市社会福祉協議会、横浜おもちゃフェスタ実行委員会、経済産業省、玩具（おもちゃ）について、子どもはもちろんのこと障碍児者や高齢者まで考慮に入れた玩具制作についてのせみたーと博覧会を実施した。海外進出を見据えて（当時、まだ未進出）の公開を兼ねて実施した。
６．研究費の取得状況				
1.文部科学省委託研究；「園の保育相談力向上ための人材育成に関する研究～保育臨床相談をコーディネートする教員の資質向上を目指して～	共	2013年～2014	國學院大學、日本乳幼児教育学会、日本保育学会	（神長美津子、柴崎正行、日浦直美、小田豊、菊野春雄、秦野悦子、菅野信夫、岩立京子、塩谷香、高梨珪子、渡邊英則、西本望、中井清津子、濱名浩、安達譲、結城孝治、廣井雄一、山瀬範子ら）2010年度から4年間、試行的に保育臨床コーディネーター・ワークショップを実施してきた。このワークショップは、社会貢献の一つとして、一人一人の学会員が自分の研究だけでなく、多くの方々への責務としてとらえ、これまでの成果と課題、保育臨床コーディネーターのための研修の在り方についての再検討を試みた。①発達支援、②子育て支援、③園内研修の運営、④保育者の資質向上の４つの立場から保育臨床の現状と課題を改めて整理して、これまで本学会で実施してきた保育臨床コーディネーター・ワークショップの在り方について論究し、保育実践の現状と課題、園において保育臨床相談体制をつくる上での課題について論じた。
2.文部省科学研究費補助金研究；5年制教員養成課程の研究	共	2003年		学部4年間と大学院1年間の一貫した教員養成課程について、5年制教員養成課程を実施している先進国である米国の教員養成大学の取り組みの調査研究を行った。
3.文部科学省指定学術フロンティア推進拠点研究プロジェクト；関西圏の人間文化についての総合的研究―文化形成のモチベーション―	共	2002年～2007	武庫川女子大学関西文化研究センター	（西本望、本玉元）子育て観や子育ての実態調査から得られた祖父母世代と親世代の「子ども観」の聞き取りの研究結果
4.文部科学省指定学術フロンティア推進拠点研究プロジェクト日本版General Social Surveys JGSS-2001	共	2001年～2003年	大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所	（大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所：谷岡一郎、仁田道夫、佐藤博樹、岩井紀子、安藏伸治、池田太一、石田浩、岩井八郎、小島宏、林妙音、宮田由紀夫、中尾啓子、西本望、西村幸満、大井方子、清水誠、高橋和子、豊山宗洋、閻和平、安野智子ら）社会調査から人びとの行動や社会現象を把握し、データの開示で社会に還元する。JGSS-2000社会調査を改善し、より日本の社会科学の研究水準を発展させるとともに人びとの生活を向上させることに資することに本調査の目的がある。つまり調査によって把握した人びとの行動や社会現象をデータとして公開をすることで社会に還元することによって、追視・再現可能となって研究者の偏向した意思や一定方向への誘導を防ぐことが可能となる。調査項目は、生活習慣、団体への所属、余暇活動、死生観・信仰、人間観、家族・ジェンダー論などである。
5.文部科学省指定学術フロンティア推進拠点研究プロジェクト日本版General Social Surveys JGSS-2000	共	2000年～2002	大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所	谷岡一郎、仁田道夫、佐藤博樹、岩井紀子、安藏伸治、池田太一、石田浩、岩井八郎、木村雅文、小島宏、林妙音、宮田由紀夫、中尾啓子、西本望、西村幸満、大井方子、清水誠、篠原健一、杉田陽出、高橋和子、豊山宗洋、閻和平、安野智子)東京大学と大阪商業大学の教員を中心とした共同研究。日本社会と人びとの意識や行動の実態を把握することに主眼を置いている。世帯構成、就業、家族間、死生観、宗教、余暇活動、社会道徳、生活環境などさまざまな問題関心から分析ができる調査データとして構築された。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2021年12月～　現在に至る	日本乳幼児教育学会　副会長
2.2018年6月～2022年5月	日本保育学会大会第73回大会実行委員会　近畿地区ブロック代表理事
3.2018年6月～2022年5月	日本保育学会大会検討委員会
4.2017年10月～2018年12月	日本世代間交流学会第9回大会　実行委員長
5.2017年9月～現在に至る	幼児発達研究会　会長
6.2016年4月～現在に至る	日本乳幼児教育学会　編集委員会　委員長
7.2015年4月～現在に至る	兵庫県保育者養成協議会　会長
8.2015年4月～2017年9月	幼児発達研究会　副会長
9.2015年4月～2017年3月	日本乳幼児教育学会第26回大会運営委員会　顧問
10.2014年5月～現在に至る	日本保育学会理事（執行部2016/05～2018/05）
11.2014年5月～2018年5月	日本保育学会　常任編集委員会　委員
12.2014年5月～2016年5月	日本保育学会　課題研究委員会　委員長
13.2014年	日本世代間交流学会第5回大会実行委員会　実行委員
14.2013年4月～現在に至る	日本乳幼児教育学会　常任理事
15.2012年5月～2015年5月	日本保育学会第67回大会実行委員・運営委員
16.2012年4月～現在に至る	幼児発達研究会理事
17.2011年4月～2013年4月	日本乳幼児教育学会第22回大会実行委員会　委員長
18.2010年5月～現在に至る	日本乳幼児教育学会　編集委員会　委員
19.2010年5月～現在に至る	日本乳幼児教育学会理事・事務局長補佐
20.2010年4月～現在に至る	日本世代間交流学会　編集委員会　委員
21.2010年4月～現在に至る	日本世代間交流学会理事
22.2010年04月～2016年05月	日本保育学会　研究倫理事例集作成委員会　委員(委員長代行)
23.2009年5月～現在に至る	日本保育学会評議員
24.2009年4月～2010年3月	大学教育学会課題研究集会実行委員会　副委員長
25.2007年4月～2009年3月	2008年度世界新教育学会大会実行委員会　事務局長
26.2007年2月～2010年2月	日本乳幼児教育学会事務局幹事
27.2006年5月～2010年5月	日本保育学会理事
28.2006年4月～2011年3月	玩具福祉学会紀要編集委員会　委員
29.2001年6月～2019年5月	玩具福祉学会副理事長
30.2001年6月～2019年5月	玩具福祉学会理事